

県立高校の将来構想

—中長期を見据えた魅力と活力ある学校づくり—

(案)

令和6年12月3日
新潟県教育委員会

目 次

I 「将来構想」の策定にあたって

- 1 平成28年3月策定の「将来構想」の総括 1
 - (1) 「H28 将来構想」策定の趣旨
 - (2) 適正な学校規模
 - (3) 「H28将来構想」で示した高校の5つのタイプ

- 2 本構想策定の背景 4
 - (1) 「将来構想」策定の前倒しと本構想の計画期間
 - (2) ICTを活用した遠隔教育の導入
 - (3) 広域通信制高校の入学者数増加

- 3 「将来構想」における留意すべき視点 5
 - (1) 新しい時代に求められる力の育成
 - (2) 多様な生徒への対応
 - (3) 中学校卒業生数のさらなる減少

II 「将来構想」の基本的な考え方

- 1 目指すひとつづくりの姿 7

- 2 「将来構想」の3つの基本方針 7

- 3 学校・学科の配置 8
 - (1) 6つのエリア
 - (2) 学校規模・配置
 - (3) 県立高校と市立・私立高校との関係

Ⅲ 「将来構想」における高校のすがた	
1 高校の特色化・魅力化	11
(1) 普通科系学科	
(2) 職業教育を主とする専門学科	
(3) 総合学科	
(4) 生徒一人一人の状況に合わせて学べる高校	
(5) 中高一貫教育校	
2 遠隔教育の推進	17
(1) 遠隔教育について	
(2) 「遠隔教育配信センター」の設置	
(3) 学校間連携による遠隔授業の実施	
3 学校間連携や学校と地域との連携・協働	20
(1) 学校間連携	
(2) 高校と地域との連携・協働について	
Ⅳ 「将来構想」における高校の配置	23
Ⅴ エリアごとの構想	
エリア①	24
[新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、栗島浦村]	
エリア②	26
[新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町]	
エリア③	28
[長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村]	
エリア④	30
[十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町]	
エリア⑤	32
[糸魚川市、妙高市、上越市]	
エリア⑥	34
[佐渡市]	
【資料編】	37

I 「将来構想」の策定にあたって

1 平成28年3月策定の「将来構想」（以下、「H28将来構想」）の総括

(1) 「H28将来構想」策定の趣旨

- 本県では、「H28将来構想」を策定した当時においても、すでに少子化が進行しており、中学校卒業生数の減少への対応が求められていました。そうした状況にあっても、社会のニーズや生徒・保護者のニーズに対応しながら、魅力ある学校づくりを進めるためのビジョンとして、「H28将来構想」を策定しました。

(2) 適正な学校規模

- 「H28将来構想」では、適正な学校規模を1学年あたり4～8学級とし、これに満たない学校については、他校との統廃合を検討していくこととしました。
- しかしながら、県立高校(注1)の統廃合にあたっては、地元関係者の意見に配慮しながら丁寧に進めてきたことに加え、ICTを活用した遠隔授業の導入により、小規模校のデメリットをどの程度解消できるか検証を行ってきたことから、「H28将来構想」の計画期間における県立高校の統廃合は、令和7年度以降の計画を含めて7件にとどまっています。
- この間、生徒数の減少をほぼ県立高校の学級減で対応してきたため、令和7年度の募集学級では、全日制課程で1学級9校、2学級14校という状況であり、県立高校の小規模化が進行しています。平成27年度では1～3学級募集の小規模校が、全日制課程で21校、25%でしたが、令和7年度には、41校、53%となり、「H28将来構想」で示した適正な学校規模を下回る学校のほうが多くなってしまい、県立高校の小規模化の進行は、本県高校教育における大きな課題となっています。

(注1) 本構想における「県立高校」には、県立中等教育学校後期課程を含みます。

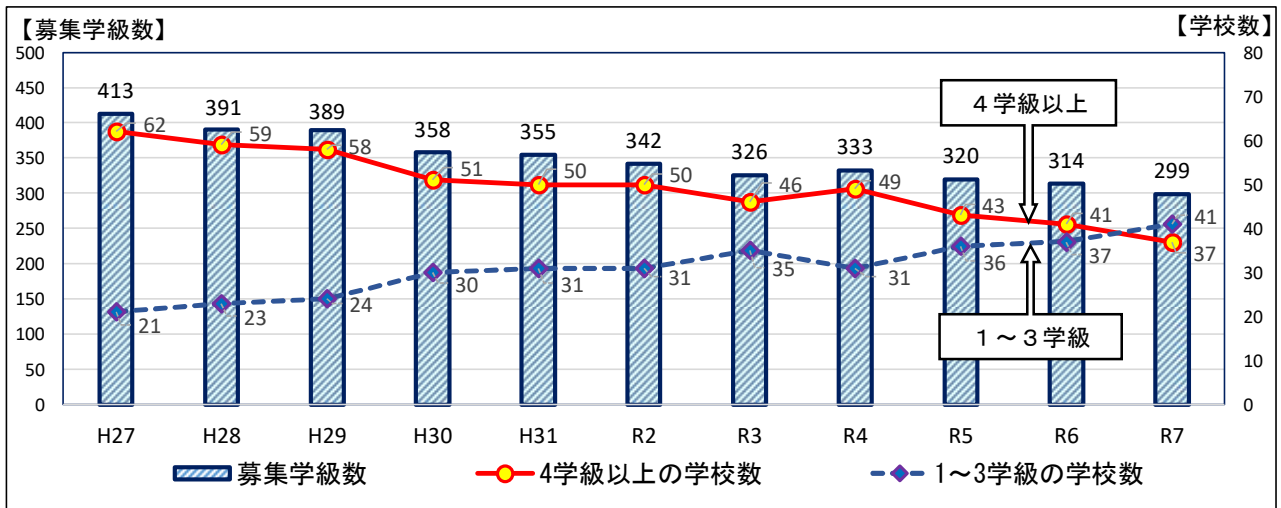
【参考】令和7年度 県立高校（全日制課程）募集学級別 学校分類

学級数	学校数	学校名
1学級	9	阿賀野 豊栄 白根 阿賀黎明 正徳館 栃尾 有恒 羽茂 佐渡中等
2学級	14	中条 村松 吉田 分水 見附 柏崎常盤 八海 松代 海洋 村上中等 柏崎翔洋中等 燕中等 津南中等 直江津中等
3学級	18	村上 村上桜ヶ丘 新発田商業 新潟北 新津南 三条商業 柏崎総合 柏崎工業 小千谷西 小出 国際情報 塩沢商工 十日町総合 高田商業 新井 糸魚川 糸魚川白嶺 佐渡総合
4学級	10	新発田農業 新津工業 新潟県央工業 加茂 加茂農林 長岡農業 長岡商業 六日町 十日町 高田農業
5学級	11	新潟向陽 巻総合 五泉 三条東 長岡向陵 長岡工業 柏崎 小千谷 高田北城 上越総合技術 佐渡
6学級	6	新津 新潟東 巻 三条 長岡大手 高田
7学級	5	新発田 新発田南 新潟江南 新潟西 新潟工業
8学級	3	新潟中央 新潟商業 長岡
9学級	2	新潟 新潟南
合計	78	※ 中等教育学校は、後期課程の学級数

【参考】県立高校（全日制課程）の募集学級の推移

年 度	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
募集学級数	413	391	389	358	355	342	326	333	320	314	299
1～3学級の学校数	21	23	24	30	31	31	35	31	36	37	41
4学級以上の学校数	62	59	58	51	50	50	46	49	43	41	37

※ 学校数は、分校及び中等教育学校を含む。



(3) 「H28将来構想」で示した高校の5つのタイプ

- 「H28将来構想」では、同じ普通科系高校（注2）においても、ほとんどの生徒が大学進学を希望する学校がある一方、専門学校等への進学や企業への就職など、生徒の進路希望が多岐に渡る高校もあるとし、高校に求められる役割や各高校の特色をより一層明確にするため、本県独自に次の5つのタイプを設定しました。
 - ◆ **専門分野を探究する高校**
専門分野を探究し、社会の第一線で活躍する人材を育成する高校
 - ◆ **学科総合型の産業高校**
複数の専門学科からなり、学科の枠を越えた学習も可能な高校
 - ◆ **大学進学を重視した学究型の高校**
より高いレベルの学びに向けて、ほぼ全員が大学に進学する高校
 - ◆ **総合選択制の高校**
普通科目とともに、専門的な知識や技能を学ぶ科目を選択できる高校
 - ◆ **柔軟な学びを可能とする高校**
一人一人の能力や適性にあわせて学ぶことのできる高校
- 「H28将来構想」の計画期間においては、普通科系高校への「地域産業コース」「地域探究コース」等の設置、通信制課程の高校への「通学コース」の設置、専門高校の学科改編などを通じて、「総合選択制の高校」「柔軟な学びを可能とする高校」「専門分野を探究する高校」の設置を進めてきましたが、その他のタイプの高校については未設置の状況でした。
- こうした中、令和3年1月の中央教育審議会答申において、各高校の存在意義や社会的役割等を明確化することが示されたことを受け、本県においても令和5年3月に、高校ごとの「スクール・ミッション」を策定しました。
- 各高校の役割や特色を明確にするという目的については、この「スクール・ミッション」が新たに果たすものと考えており、今後は一つ一つの学校に応じた特色化・魅力化を進めることとします。
- なお、生徒の多様な進路選択の機会を確保できるよう、各エリアに様々なタイプの学校・学科をバランスよく配置するという「H28将来構想」の方針は、今後も維持したいと考えています。

（注2）本構想における「普通科系学科」には、普通科とその他専門学科を含みます。本県のその他専門学科には、国際文化科、情報科学科、理数科、国際科学科、国際教養科、音楽科があります。

2 本構想の策定の背景

(1) 「将来構想」策定の前倒しと本構想の計画期間

- 「H28将来構想」では、計画期間を平成30年度から令和9年度としていましたが、その間、GIGAスクール構想の推進に伴うICT環境の整備や、広域通信制高校の入学者数増加など、高校教育を取り巻く状況は急激に変化してきています。加えて、「H28将来構想」での想定を上回る生徒数の減少が進行していることから、これらの変化に適切に対応し、時代に即した新しい学校づくりの方向性を早期に示すため、「将来構想」を前倒しで策定することとしました。
- 本構想の計画期間については、令和7年度から令和16年度までの10年間としました。本構想は、今後の県立高校のあるべき姿を示すものであり、具体的な内容については、地元関係者からの意見にも配慮しながら「3年ごとの計画」である「県立高校等再編整備計画」を毎年策定し、公表していくこととします。また、今後も高校教育を取り巻く状況の変化や、国の制度改正などに伴い、必要に応じて本構想の見直しを行っていきます。

(2) ICTを活用した遠隔教育の導入

- 本県では、令和3年度から令和5年度の3年間、文部科学省事業「COREハイスクール・ネットワーク構想」に採択されたことを受け、「新潟の未来をSAGA Suプロジェクト」として、離島・中山間地域における高校の教育環境の充実に向け、遠隔教育の実証研究に取り組んできました。
- 遠隔教育の導入により、生徒の興味・関心や進路希望に応じた選択科目の開設に加え、学校間連携や外部人材との連携などを進めることで、小規模校のデメリットを最小化できる可能性があると考えています。

(3) 広域通信制高校（注3）の入学者数増加

- 県内の中学校卒業者のうち、私立広域通信制高校への入学者数は、平成29年春の97人から、令和6年春には5倍以上となる505人に増加しており、今後も増加傾向が続くものと予想されます。
- こうした状況を踏まえ、本県においても、生徒一人一人の個性やニーズに応じた、柔軟な学びができる教育環境の整備を行うため、定時制課程・通信制課程のあり方を検討する必要があります。

（注3）全国もしくは3つ以上の都道府県を対象に生徒募集を行っている通信制高校です。
本県では、県外に実施校（本校）を置く広域通信制高校の生徒数が多い状況です。

3 「将来構想」における留意すべき視点

(1) 新しい時代に求められる力の育成

- 近年、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造は急速に変化しており、複雑で予測困難な時代を迎えようとしています。
- こうした中、生徒一人一人が、社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、多様な他者と協働しながら課題を発見し、解決するために必要な力を育成するため、探究的な学びを推進する必要があります。
- また、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながら課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められていることから、STEAM教育（注4）等、教科等横断的な学びも重要と考えています。
- さらには、予測困難な時代を生き抜くため、チャレンジ精神、創造性、探究心等の起業家精神や起業家的資質・能力を育むことで、生徒が主体的に自己の進路を選択決定できるよう、アントレプレナーシップ教育（注5）についても進めていく必要があります。

(2) 多様な生徒への対応

- 本県の中学校卒業者が高校等に進学する割合が、99.5%を占める状況において、多様な学習歴、進路希望等を持つ生徒が高校に在籍しています。
- また、県内の国公私立の小中学校で、令和4年度に30日以上欠席した不登校の児童生徒は4,759人で、前年度より905人増え、7年連続で過去最多を更新しています。
- こうした状況において、生徒一人一人の学習進度や個性に応じた個別最適な学びの推進が重要になるとともに、多様な生徒の生活・学習スタイルに応える高校の設置が必要であると考えています。

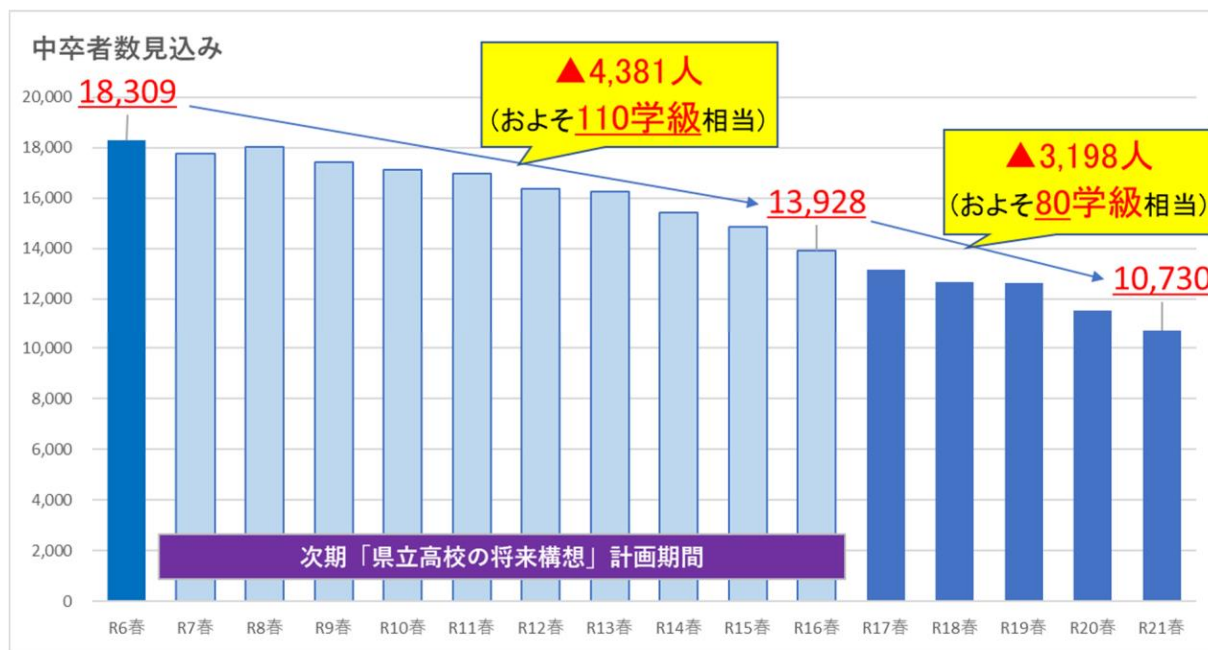
（注4）文部科学省では、STEM（Science, Technology, Engineering, Mathematics）に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義しています。

（注5）起業に限らず、新事業創出や社会課題解決等、新たな価値を生み出す姿勢や発想・能力等（アントレプレナーシップ、起業家精神）を身に付けるための教育を指します。

(3) 中学校卒業者数のさらなる減少

- 本県の中学校卒業者数は、昭和38年春の70,499人をピークに減少傾向が続き、令和6年春には18,309人となっています。今後もこの減少傾向は継続し、令和6年春から15年後の令和21年春にかけて、7,600人程度減少すると推計されています。この減少数は、1学級40人として換算すると、190学級分に相当し、1学年6学級規模の学校で、およそ32校分になります。
- 仮に高校の統廃合を行わず、現在の学校数を維持し、生徒数の減少をすべて県立の全日制高校の学級減で対応した場合、全日制高校1校あたりの募集学級数の平均は、令和6年春の4.0学級から、令和21年春には計算上、1.6学級になります。
- 少子化が進行する中であっても、将来にわたり、教育の質の維持・向上を図ることは公教育の責任であると考えており、高校の再編整備を推進しながら、各エリアで一定規模の学校の配置を維持し、生徒に多様な学習機会を提供することで、教育の質を保障していきたいと考えています。

【参考】本県における中学校卒業者数の見込み



【参考】学校数を維持した場合の県立高校（全日制）1校あたりの募集学級数

	県立高校等数 (全日制)	中卒者数の見込み	募集学級数 (全日制)	1校あたりの募集学級数
令和6年春	78	18,309	314	4.0
令和16年春	78	13,928	204	2.6
令和21年春	78	10,730	124	1.6

Ⅱ 「将来構想」の基本的な考え方

1 目指すひとづくりの姿

ふるさとへの愛と誇りを胸に、夢や希望を持って粘り強く挑戦するとともに、自ら学び続ける力を身につけ、未来を切り拓いていける、たくましいひとづくり

- 地域への理解を深め、郷土愛を育むことで、地域社会を支える人材を育成するとともに、生徒一人一人が夢の実現に向けてチャレンジし、生涯を通じて主体的に学び続ける力を育成することで、急激に変化する社会の中にあっても、たくましく生きていくひとづくりを目指します。

2 「将来構想」の3つの基本方針

◆ 多様化する教育ニーズに対応した選ばれる学校づくりの推進

探究的な学びに重点をおいた新しい普通科系学科（注6）・コースや、最先端で実践的な専門教育を実施する専門学科、生徒一人一人の状況に合わせて学べる学校など、魅力と特色ある学校の設置を進めます。

◆ 多様な主体との連携・協働やICTの活用による教育環境の充実

市町村や大学、産業界など、多様な主体との連携・協働体制の構築を進めるとともに、ICT等の諸技術も活用しながら、遠隔教育や学校間連携、外部人材との連携を進め、高校の教育環境の充実を図ります。

◆ 教育の質の維持・向上を図る再編整備の推進

生徒に多様な学習機会を提供するため、高校の再編整備を推進しながら、各エリアで一定規模の学校の配置を維持するとともに、様々なタイプの学校を設置することで、教育の質の維持・向上を図ります。

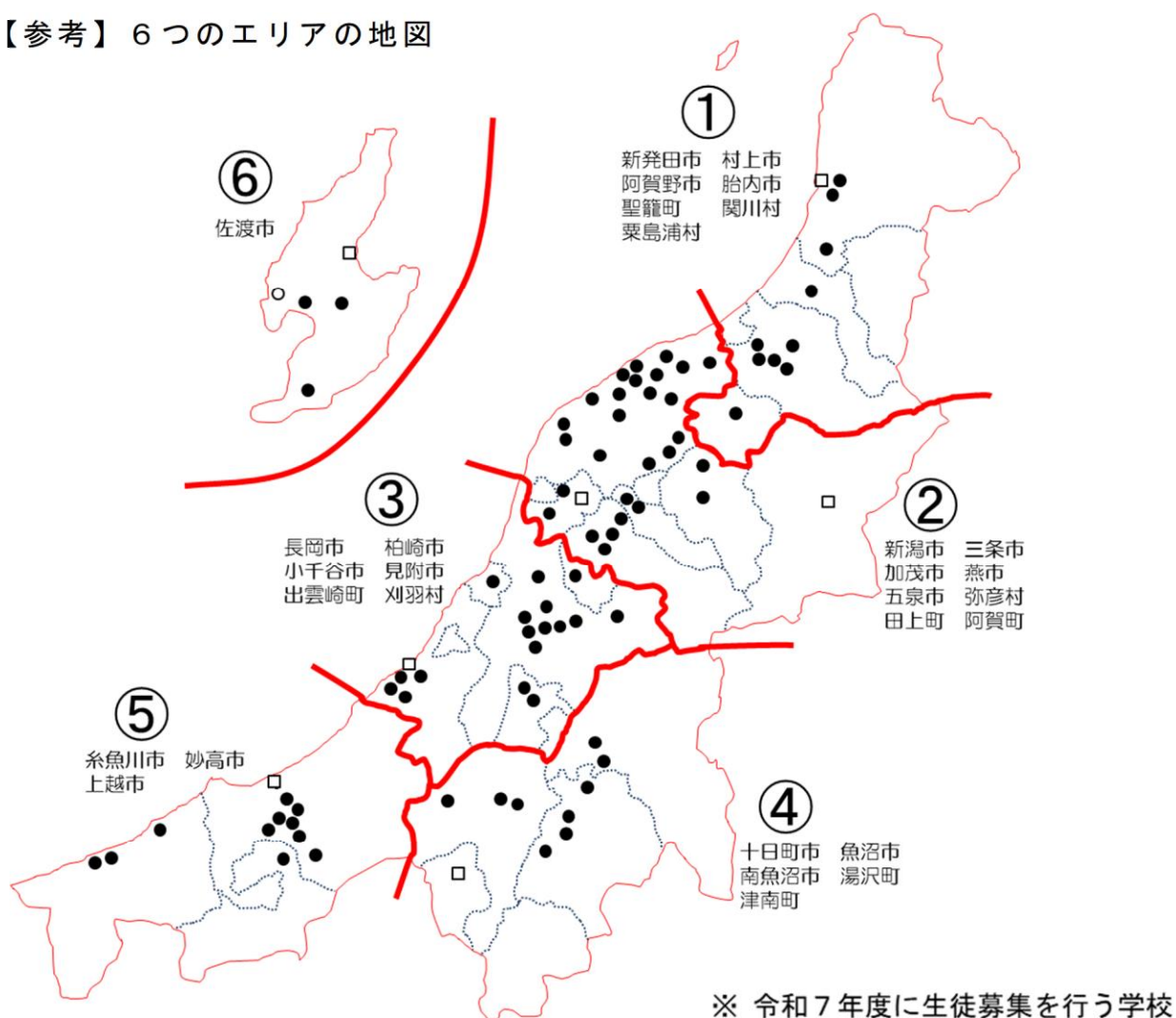
（注6）学校教育法施行規則等の改正により、「普通教育を主とする学科」として、令和4年度から新たに設置することが可能となった学科を指します。この新しい普通科には学際領域学科、地域社会学科、その他普通科があります。

3 学校・学科の配置

(1) 6つのエリア

- 本県ではかつて、従来の通学区域を基にした8つのエリアごとの状況を踏まえ、再編整備計画や募集学級計画を策定してきましたが、市町村合併が進み、通学範囲が広域化していることなどから、「H28将来構想」以降、現在の市町村を基に6つのエリアに分けて対応することとしました。
- 本県の高校等進学率は、99.5%程度で推移し、全国に比べ高い状況にあります。このことは、6つのエリアを基にした募集学級計画の策定が、適切に行われていることが一つの要因であると考えています。
- 今後も、これまでの6つのエリアを維持するとともに、それぞれの生徒の就学の機会に配慮し、交通事情などそれぞれのエリアの状況を斟酌しながら、必要な学校・学科をバランスよく配置したいと考えています。

【参考】6つのエリアの地図



● 県立高校(本校) ○ 県立高校(分校) □ 県立中高一貫教育校

(2) 学校規模・配置

- 「H28将来構想」では、適正な学校規模を1学年あたり4～8学級としていましたが、現在の募集学級数の状況や、ICTの導入による教育環境の変化を踏まえるとともに、多様な学習機会の提供や、教育の質の維持・向上の観点から、本構想では、次のような学校規模・配置を基本的な考え方とします。

以下の学校を各エリアに1校以上配置する。

- ◆ 1学年あたり4学級以上の普通科系高校
- ◆ 1学年あたり3学級以上の専門系高校（総合学科を含む）
- ◆ 生徒一人一人の状況に合わせて学べる高校

※ 生徒の流出入が限られているエリア⑥（佐渡エリア）の配置については別途検討することとします。

- 各エリアに上記の学校を配置し、そのための学校規模を維持するため、学校・学科の統合を進めることとします。また、統合にあたっては、より良い教育環境を整備するために、統合校における教育内容や施設・設備等の充実をあわせて検討する必要があると考えています。
- なお、離島・中山間地域などの地理的条件や、学びのセーフティネットの確保の観点等を踏まえ、あえて存続させる小規模校もあり得ると考えています。
- あえて存続させる小規模校においては、ICTを活用した遠隔教育や、地域との協働体制構築などを進め、そのデメリットの最小化を図ることとします。

(3) 県立高校と市立・私立高校との関係

- 本県には市立高校として、新潟市に全日制課程の普通科系高校、定時制課程の高校、中等教育学校の3校があります。また、私立高校は、全日制課程の普通科系高校や通信制課程の高校など19校が存立しており、それぞれの高校が建学の精神や教育理念に基づき、特色ある教育活動を展開しています。
- 県立高校等の募集学級計画は、中学校卒業生数や生徒のエリア間の流入状況等を勘案しながら策定しており、毎年度の募集学級数については市立・私立高校の募集定員の状況も加味した上で決定しています。
- 平成27年春から令和7年春の10年間で、中学校卒業生数が3,900人余り減少する中、中等教育学校後期課程を含む県立高校の募集学級数が109学級減少する一方、私立高校では2学級減にとどまっており、ほぼ県立高校のみで学級減を行ってきた状況にあります。
- 毎年、新潟県公私立高等学校連絡協議会において、中学校卒業生数や公私立の各学校の入学状況等について情報交換を行ってききましたが、今後、より深刻になる生徒数の減少についても、公私共通の課題として共有していきたいと考えています。

【参考】県立高校と市立・私立高校の募集定員比率の推移

年 春	平成17年春	平成27年春	令和7年春
中学校卒業生数 (10年前との差)	25,480人 —	21,693人 (▲3,787人)	17,782人 (▲3,911人)
県立高校の定員比率	78.7%	77.2%	71.8%
市立高校の定員比率	2.9%	2.3%	2.9%
私立高校の定員比率	18.4%	20.5%	25.3%

- ※ 市立高校とは、新潟市立の高校・中等教育学校後期課程のことです。
- ※ 県立高校及び私立高校の定員比率に、通信制課程は含まれません。

Ⅲ 「将来構想」における高校のすがた

1 高校の特色化・魅力化

- 本県では、令和4年度に「スクール・ミッション」を策定し、各学校の「存在意義」「期待される社会的役割」「目指すべき学校像」などを明確化したところであり、高校の特色化・魅力化にあたっては、この「スクール・ミッション」を踏まえながら、進めていくこととします。

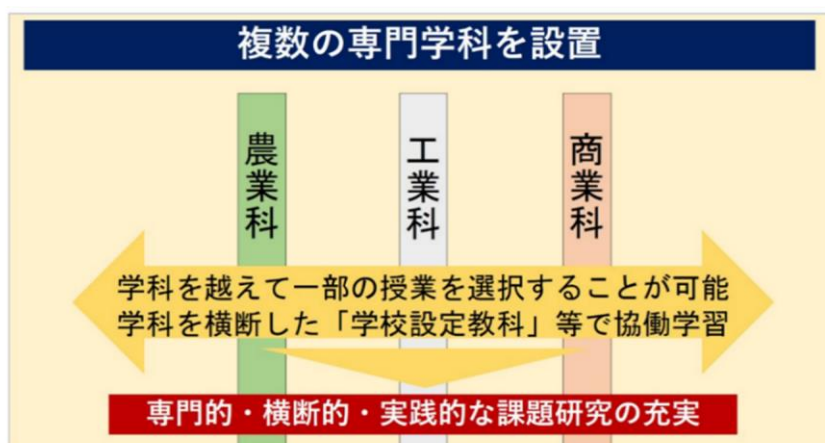
(1) 普通科系学科

- 普通科系高校においては、全ての高校において探究的な学びの充実を一層進めていきます。そのためには、「総合的な探究の時間」の学びだけではなく、各教科・科目の授業においても探究的な学びを取り入れるとともに、STEAM教育や教科横断的な学びの充実を進めます。
- また、これから予測される社会的変化や課題に対応した人づくりを目指し、例えば、AI、データサイエンス、地域社会分野、地球環境問題などをテーマとした、新しい普通科系学科・コースの設置を進めます。
- こうした特色ある学科・コースの設置にあたっては、地元自治体や企業、大学等、関係機関との連携協力体制を整備する必要があり、関係機関との連絡調整等を行うコーディネーターの配置や、コンソーシアム体制の構築などを進め、持続可能な体制づくりに取り組みます。
- 加えて、県外の生徒も学びたくなるような、特色ある教育プログラムの導入も進めることとし、例えば、全国的にも事例が少ない、世界水準の国際教育プログラムの導入などについて、検討を進めます。

(2) 職業教育を主とする専門学科

- 職業教育を主とする専門学科（注7）においては、技術革新や産業構造の変化、グローバル化等、社会の急激な変化に対応するため、地域産業界や大学等の高等教育機関との連携をより一層推進します。ついては、外部講師の招へいやインターンシップ、デュアルシステムなどに加え、地域の産官学が一体となった教育課程を開発するなどして、地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人材育成を目指します。
- また、複数の専門学科を併せ持つ「産業高校」を設置し、本県産業を支えるとともに、新しい価値を創造し、経営や技術面においても産業界をリードする人材の育成に努めます。
- 「産業高校」では、生徒が自分の所属する専門学科での深い学びを軸としながら、他の専門学科との横断的・協働的な学びを進めます。例えば、工業科の生徒が、商業科のマーケティングやビジネス、マネジメントに関する授業を選択履修することで、工業分野における企業経営のノウハウの習得や、起業家精神の育成などにつなげることができると考えています。また、学科を横断した学校設定教科の設置や、異なる学科の生徒が協働して取り組む課題研究の実施、模擬株式会社の共同運営など、協働的な学びの実現に取り組んでいきます。
- なお、専門高校の統合にあたっては、統合前の学校施設・設備等を活用する「キャンパス制」の導入についても、必要に応じて検討していきます。

【参考】産業高校のイメージ



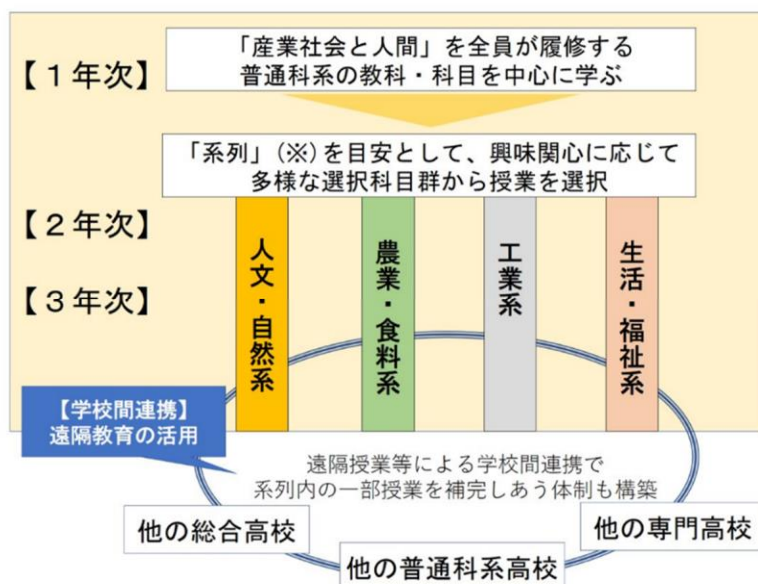
※ 図に示した学科の組合せは一例である

(注7) 本構想では、農業科、工業科、商業科、家庭科、水産科を指します。なお、専門学科においては、各専門教科・科目について、25単位以上履修することが定められており、産業高校におけるそれぞれの専門学科においても該当するものです。

(3) 総合学科

- 近年の技術革新に伴い、産業界で必要な専門知識や技術が日々変化している現代においては、特定の専門分野のみならず様々な分野に関する知識・技術が求められています。そのため、総合学科（注8）においては、多くの開設科目から主体的な選択履修が可能であるという特色をより充実させていく必要があります。
- ついては、遠隔教育のシステムを活用した学校間連携のネットワークを構築し、他校の科目を履修して単位認定する仕組みの活用や、外部人材の活用を推進しながら、専門科目の学びの充実、協働的な学びの充実を図ります。

【参考】総合高校のイメージ



(※) 系列…相互に関連する教科・科目によって構成される科目群

※ 図に示した系列の組合せは一例である

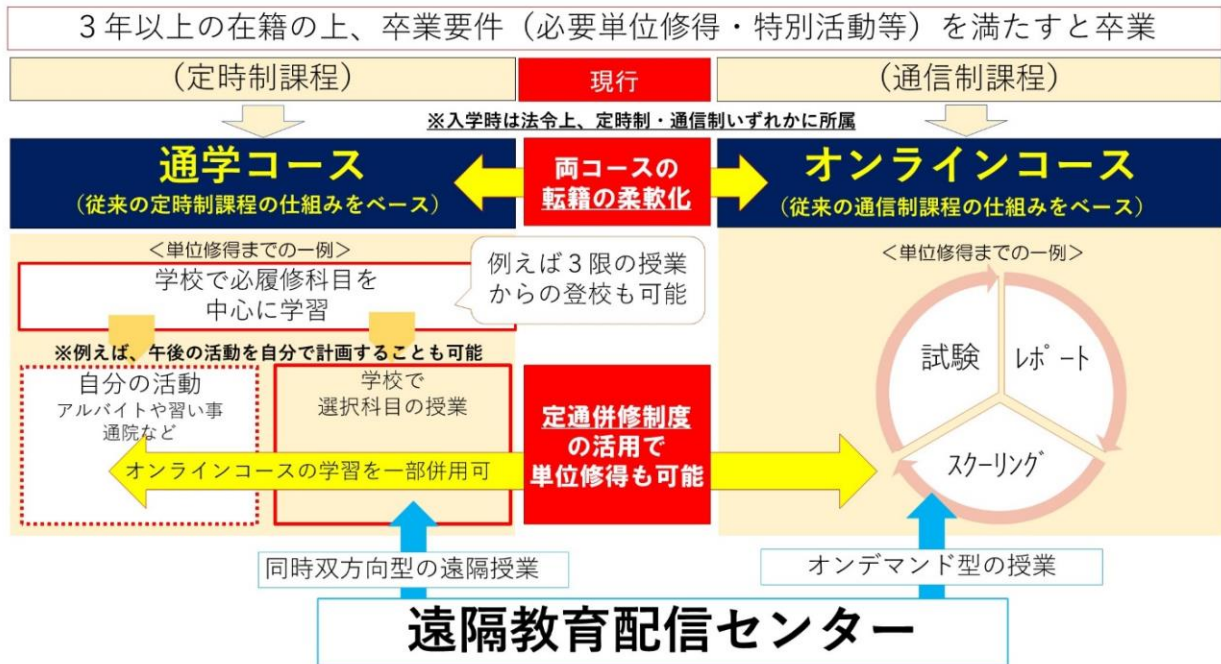
(注8) 普通科、専門学科に加えて、普通教育と専門教育を選択履修を旨として総合的に施す第3の学科として、平成6年度に創設された学科です。多様な開設科目の中から生徒が自由に学ぶ科目を選択できること、「産業社会と人間」の学習等を通して進路に関する学習が重視されていること等を特色としています。総合学科では、「産業社会と人間」及び専門教科・科目を合わせて25単位以上開設することが定められています。

(4) 生徒一人一人の状況に合わせて学べる高校

- 本県では、これまでも、生徒の多様なニーズに対応するため、単位制（注9）による定時制の高校や、通信制課程の高校における通学コース、定時制課程の高校における通級指導教室等の設置を進め、中途退学率が低下するなど、一定の成果をあげてきました。しかしながら、生徒の価値観やライフスタイルはより一層、多様化しており、それぞれの状況に柔軟に応じるための教育環境を整備する必要があると考えています。
- 生徒の多様な学習ニーズに応えるため、定時制課程と通信制課程の垣根を越えた学びの仕組みを構築するとともに、遠隔教育の活用や、デジタルレポートの導入を行い、生徒が自分の状況に合わせて学びの方法や場所を選択することができる「セルフデザインハイスクール」の設置を進めることとします。
- 「セルフデザインハイスクール」では、従来の定時制課程の仕組みをベースとした「通学コース」と、通信制課程の仕組みをベースとした「オンラインコース」を設置し、定通併修制度の活用により、お互いのコースの単位修得を可能とするとともに、生徒の状況に合わせて、コース間の転籍を柔軟に行えるような制度設計に取り組みます。
- また、単位制による全日制課程の高校と、通信制課程の高校が連携した形態についても研究を行うこととし、「セルフデザインハイスクール」の実施形態のあり方については、今後も検討していきます。
- 「セルフデザインハイスクール」においては、学ぶ意欲をもった生徒が確かな学力を身につけることができるようにするとともに、社会性やコミュニケーション力を育むため、「オンラインコース」であっても、対面で学ぶ機会を確保する必要があると考えています。そのため、通常の授業に加え、体験的な活動の充実を図るとともに、コミュニケーションスキルを高めるための内容を取り入れた集中スクーリングの実施なども検討していきます。

（注9）学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる高校です。

【参考】セルフデザインハイスクールのイメージ



(5) 中高一貫教育校（注10）

- これまで、6校の中等教育学校においては、6年間一貫した計画的な教育活動により、大学進学など、生徒の進路実現において成果をあげるとともに、海外研修や地域連携などの特色ある教育活動に取り組んできました。しかしながら、少子化の進行に伴い、中等教育学校の志願者数は減少傾向にあることから、令和2年度に外部有識者で構成される「中等教育学校あり方検討委員会」を開催しました。それぞれの中等教育学校については、委員会からの提言に基づき、地元自治体との意見交換を継続的に行いながら、中高一貫教育の実施形態の転換も含め、そのあり方の検討を進めているところです。

- 今後、中等教育学校については、これまでの地域連携活動やグローバル教育をより一層進めるとともに、6年間を見通した探究プログラムの充実を図ります。また、中等教育学校の活性化に向け、学校間連携も進めることとし、ICTも活用しながら、中等教育学校間の生徒交流や、遠隔教育による合同授業の実施などに取り組んでいきます。

- また、中等教育学校から転換して設置する、併設型の中高一貫教育校においても、中等教育学校で培ってきたノウハウを生かしながら、海外研修を軸とした異文化理解プログラムや、地域や大学等、外部機関と連携した課題探究活動に取り組むとともに、中等教育学校との交流事業も実施するなどして、中高一貫教育校の特色を最大限に生かした教育活動を推進します。

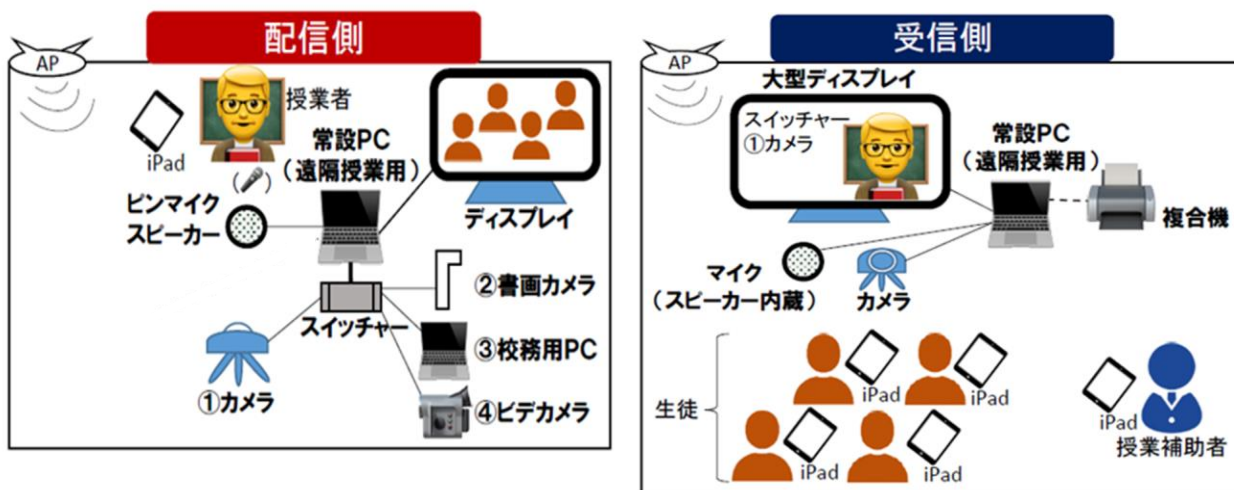
(注10)「中高一貫教育校」には「中等教育学校」「併設型」「連携型」の3つの実施形態があります。「中等教育学校」は、一つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うもの、「併設型」は、高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するもの、「連携型」は、市町村立中学校と県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能な形態であり、中学校と高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深めるかたちで実施するものです。

2 遠隔教育の推進

(1) 遠隔教育について

- 平成27年4月から、全日制・定時制課程の高校における遠隔授業が可能となり、対面により行う授業が原則であった全日制・定時制課程の高校において、対面により行う授業と同等の教育効果を有すると認める場合、同時双方向型の遠隔授業を行えるようになりました（注11）。
- 本県では、国の事業を活用した「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」において、離島・中山間地域に立地する高校が小規模化の状況にあっても、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の開設ができるよう、同時双方向型の遠隔授業に係る実証研究に取り組んできました。
- 「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」では、佐渡市及び阿賀町に立地する高校への配信により、遠隔授業のノウハウを蓄積し、国の事業が終了した後もその成果を生かし、魚沼地域や上越地域、村上市など、遠隔授業の実施範囲を順次拡大しているところです。

【参考】遠隔授業システムのイメージ



(注11) 遠隔授業は、修得単位数の上限や受信側の教室等への教員配置、対面により行う授業の時間数など、単位認定に向けた要件に留意して実施する必要があります。

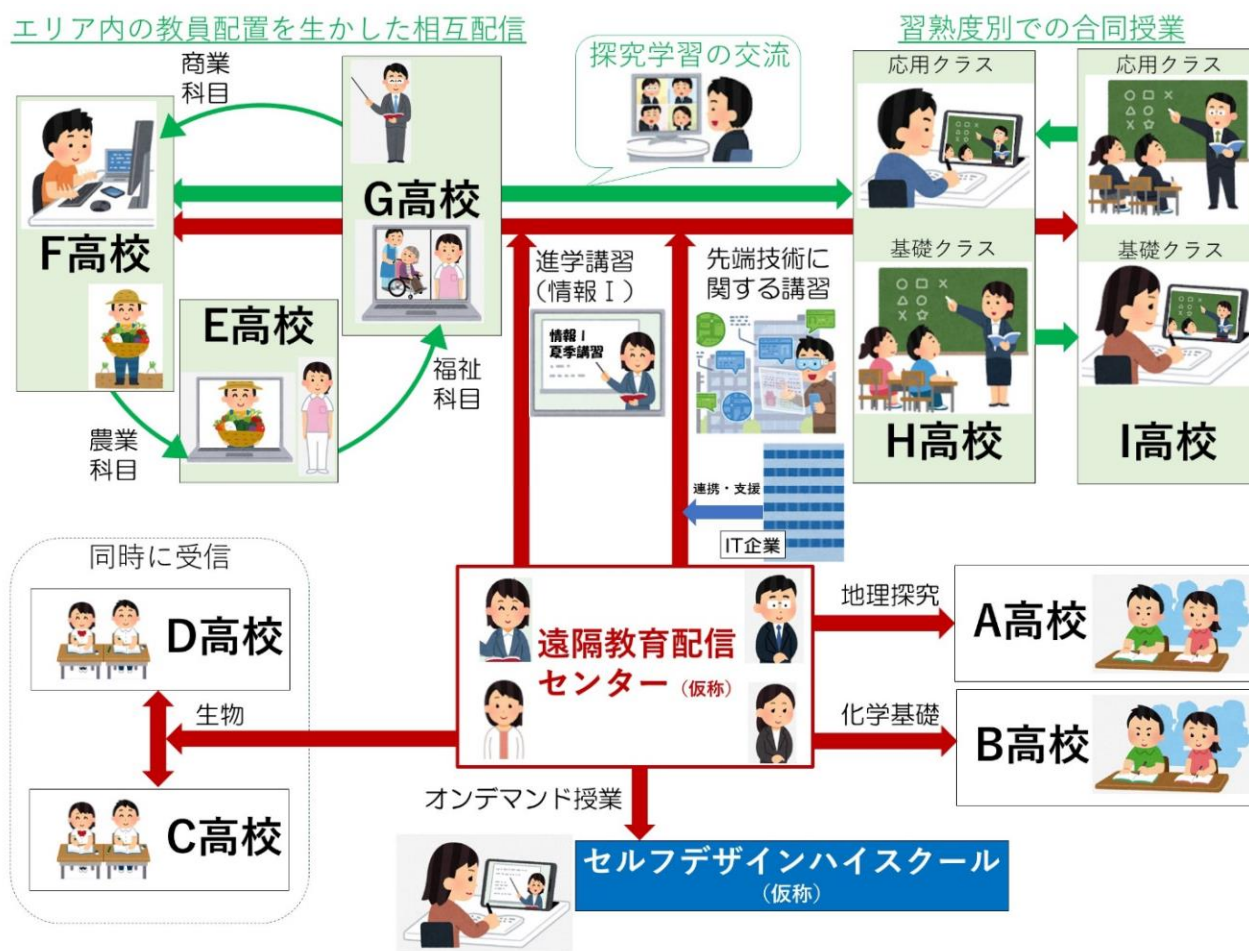
(2) 「遠隔教育配信センター」の設置

- 本県において、これまで培ってきた遠隔教育の取組をさらに推進し、その取組を全県に拡大するため、令和8年度に「遠隔教育配信センター」(以下、「配信センター」)を設置することとしました。
- 「配信センター」には、各教科・科目の専任教員を配置することで、「教科・科目充実型の遠隔授業」を実施します。小規模校における多様な科目開設や、生徒の習熟度に合わせて授業の実施に取り組み、教育の質の維持・向上を図ります。また、複数の受信校を同時に接続した形態の授業も実施することとしており、これにより、小規模校における協働的な学びの機会の確保につなげたいと考えています。
- また、「配信センター」の教員の専門性や、外部機関等との連携を生かした講習も実施することとし、例えば、放課後、夏季休業日等における進学補習や、IT企業と連携したプログラミング講座等の実施について、検討していきます。
- 遠隔教育の実施にあたっては、協働的な活動を取り入れることにも十分配慮し、生徒同士が対面で活動する機会を確保するほか、仮想空間(メタバース)の活用についても研究することとします。
- 新たに設置を進める「セルフデザインハイスクール」に対しては、同時双方向型の遠隔授業とともに、オンデマンド型授業を配信できる体制を構築することにより、多様な学習ニーズにも柔軟に対応できる支援を展開していきます。

(3) 学校間連携による遠隔授業の実施

- 総合学科においては、小規模化する中で多様な系列を維持することが困難になっている状況にあることから、当面は農業や工業等の専門高校と連携した遠隔授業等により、総合学科としての教育の質の維持を確保することにもつながると考えられます。
- なお、こうした学校間連携による遠隔授業は、教員にとって、対面の授業におけるタブレット端末の効果的な活用や、オンライン活用の良さを踏まえた授業改善の視点を獲得の機会となり、生徒の個別最適な学びや協働的な学びの充実にもつながるものと期待されます。

【参考】遠隔教育推進体制のイメージ



3 学校間連携や学校と地域との連携・協働

(1) 学校間連携

- 本県では、生徒の選択履修の機会を拡大し、生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応えるとともに、魅力ある教育活動及び開かれた学校づくりに資することを目的として、生徒が在籍する高校以外の高校において教科・科目を履修し、当該学習の成果を、当該生徒の在籍する高校の教科・科目の単位として認定する学校間連携を実施しています。

- 「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」では、多様な学校種・課程・学科で構成された実証研究校同士が、教育課程を一部共通化した遠隔授業とともに、オンライン環境を活用した生徒間交流も実施してきました。

- 今後は、高校間の連携や高校と大学等との連携による学校外の学修の単位認定や定通併修制度の活用とともに、多様な価値観に触れながら学びの充実につなげるため、オンライン環境も活用しながら国内外の学校との交流を推進します。

- また、生徒の発達段階に応じた系統的な教育活動の充実を図るためには、学校種間の接続を意識した教育課程の編成・実施や指導方法の工夫・改善を行うことが重要と考えています。中学校と高校、あるいは小学校と中等教育学校の円滑な接続の観点から、地域の実情に応じて、地元中学校との交流活動や、小中高の一貫性に配慮したキャリア教育の実施など、異なる学校種間の連携についても取り組んでいきます。

(2) 高校と地域との連携・協働について

- これまで各高校では、市町村や地元企業と連携した特色ある教育活動により、地域産業の活性化やスポーツの振興、伝統文化の継承など、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を目指すとともに、コミュニティへの参画や地域課題の解決をとおして、一人一人の能力の伸長と地域の活性化につながる取組を進めてきました。

- 本県では、普通科系高校における「地域探究コース」の設置や、県立高校へのコミュニティ・スクールの指定、国や県の関連事業などを通じて、高校と地域との連携・協働体制の構築を推進しています。

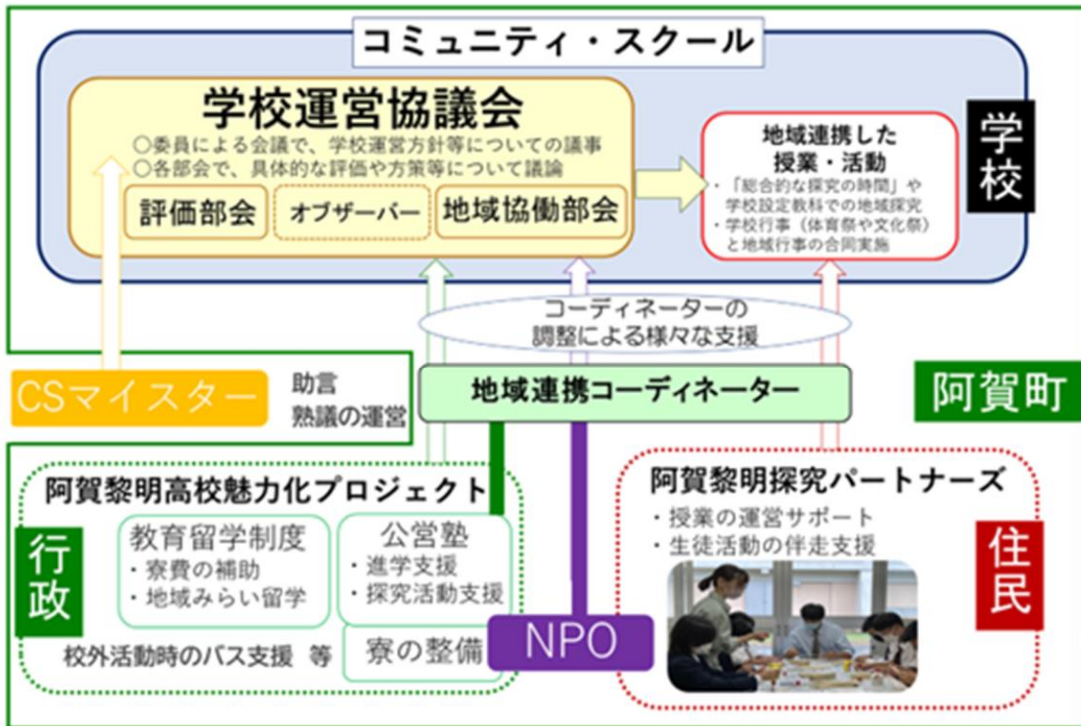
- 「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」では、離島・中山間地域に立地する高校が小規模化の状況にあっても、地元自治体が推進するキャリア教育を基盤とし、地域と協働しながら有為な人材育成に向け取り組んできました。

- 今後は、生徒が社会参画力を高め、人口減少が続く地域社会や、ひいては国際社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を磨いていくことが求められており、学校においても「社会に開かれた教育課程」の実現とともに、実社会での問題発見・解決に生かしていく視点から生徒が自らテーマを設定し、学習を進めるための教育活動が重要となります。

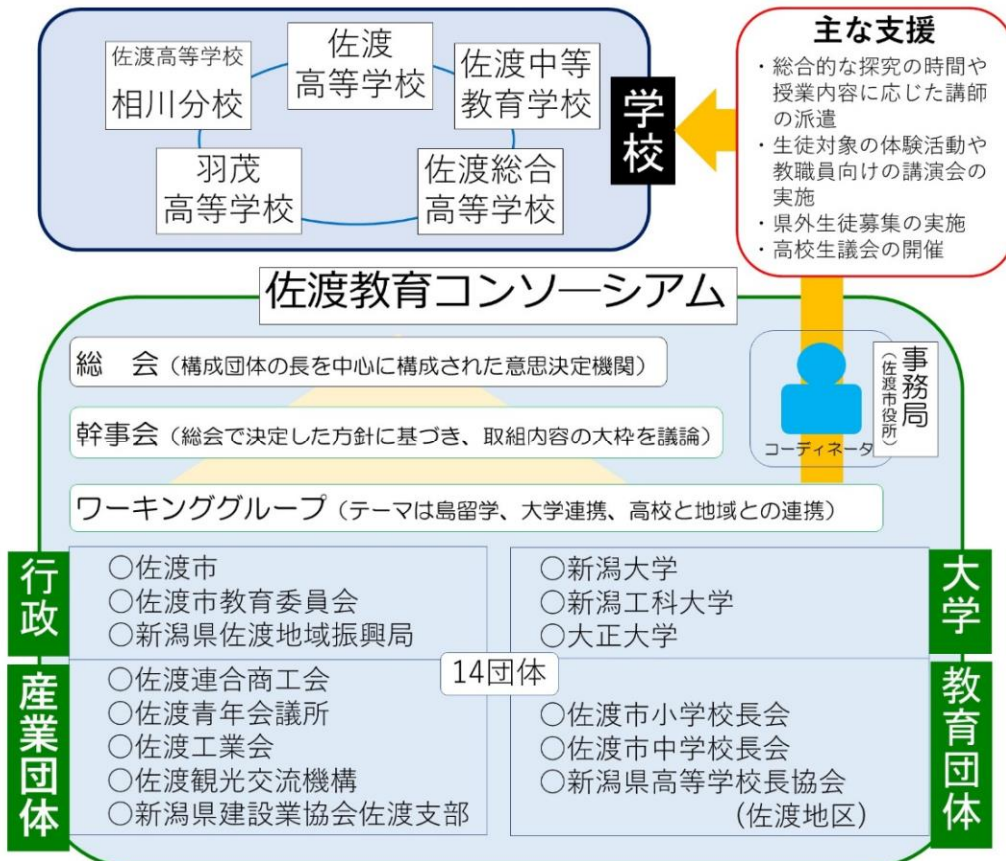
- このことから、生徒が地域や産業界、大学などと多様な接点を持ち、社会的な課題や現在行われている取組などについて学ぶことができる環境をコンソーシアムの構築やコーディネーターの配置等により推進していきます。

【参考】高校と地域との連携・協働体制の具体例

◆阿賀町：コミュニティ・スクールを設置した地域との連携・協働体制の例



◆佐渡市：コンソーシアムを設置した地域との連携・協働体制の例



Ⅳ 「将来構想」における高校の配置

高校の配置にあたっては、「3つの基本方針」にしたがい、6つのエリアごとに検討し、「Ⅱ 『将来構想』の基本的な考え方」に示した学校をバランスよく配置することに努めます。

以下の表では、学級数と学校数の見込みを示しました。

なお、令和16年春の学級数は、中学校卒業生数の減少分を県立高校の募集学級で調整したことを前提にしています。

◆ 令和7年度県立高校の募集学級数等(表1)

学科等	普通科系	総合学科系	専門学科系	定時制 通信制	募集学級計	学校数	中学校 卒業見込者数
学級数	192	32	75	15	314	86	17,782

【参考】

新潟市立高校募集学級計	13
私立高校募集学級計	113



◆ 令和16年春のすがた(表2)

学科等	普通科系高校	専門学科系高校 (総合高校含む)	セルフデザイン ハイスクール	募集学級計	学校数	中学校 卒業見込者数
学級数	133	77	15	225	64	13,928

※普通科系高校には、その他専門学科・中高一貫教育校が含まれます。

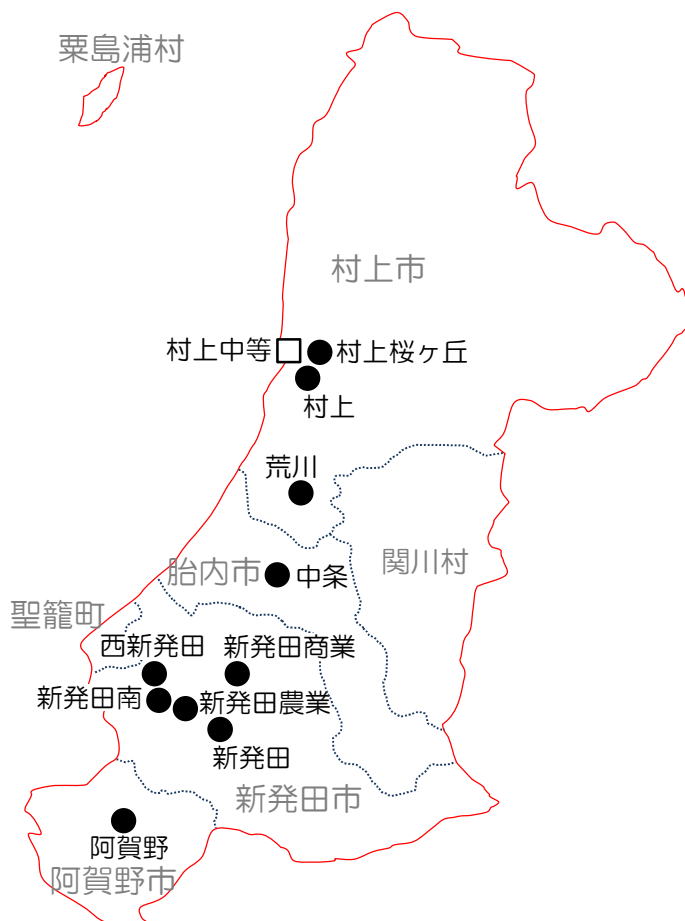
※ 次ページ以降のアンケート結果における「中学生」は「中等教育学校前期課程生徒」、「高校生」は「中等教育学校後期課程生徒」を含みます。

V エリアごとの構想

エリア①

＜新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村＞

◆ 令和7年度に生徒募集を行う学校



◆ エリアの状況

市町村名	人口 (人)	就業人口 (人)	産業構造(就業人口構成比、%)			主要農産物(5品目まで)	主要製造品(5品目まで)
			第1次産業	第2次産業	第3次産業		
新発田市	90,401	49,415	6.1	29.6	64.3	米、イチゴ(越後姫)、和牛等(新発田牛)、アスパラガス、ネギなど	農産物加工品、酒、機械、精密電子部品、窯業など
村上市	52,694	28,729	8.9	31.6	59.4	米、大豆、そば、ねぎ、枝豆など	航空機内装品、菓子、米菓、日本酒、木製建材など
阿賀野市	38,560	21,654	9.0	34.0	57.1	米、生乳、いちご、切花、球根など	瓦、陶器、石材、乳製品、めん類など
胎内市	26,854	14,235	9.4	36.1	54.5	米、米粉、にんじん、だいこん、さつまいもなど	変圧器、メタクリル樹脂、自動車用装飾品、洋傘、ニット製品など
聖籠町	14,020	7,470	7.0	37.4	55.6	米、ぶどう、さくらんぼ、ねぎ、さといもなど	デバイス、電子回路、金属製品、漬物、水酸加工食品
関川村	4,510	2,656	17.1	30.0	52.9	米、肉豚、生しいたけ	ニット製品、電気機械部品、セメント製造品
粟島浦村	320	263	31.2	3.4	65.4	馬鈴薯、大豆、小豆	水産食料品
エリア計 (対県割合)	227,359 (10.8%)	124,422 (11.0%)	7.9	32.0	60.0		

※人口は「令和6年10月1日現在新潟県推計人口」、その他の項目は「市町村要覧」(新潟県総務部市町村課、令和6年4月)による。

◆ 最も通学したい（させたい）と思う高校（アンケート結果から）

エリア①	①探究普通科系	②学問横断的	③地域社会課題	④グローバル教育	⑤職業教育専門	⑥複数専門学科	⑦特定分野	⑧自分で選択	⑨遠隔授業
高校生	122.9%	10.0%	5.4%	313.1%	11.7%	10.3%	8.8%	215.5%	2.3%
中学生	130.5%	6.9%	3.7%	7.6%	313.6%	7.0%	12.8%	216.0%	2.0%
保護者(高校生)	130.1%	213.9%	5.9%	213.9%	11.7%	10.8%	3.0%	9.7%	1.0%
保護者(中学生)	133.5%	215.6%	4.5%	11.3%	311.5%	8.5%	3.7%	10.6%	0.9%
保護者(小学生)	133.5%	213.7%	4.9%	312.1%	9.7%	10.3%	4.5%	10.5%	0.7%
保護者(保育所等)	131.4%	314.1%	4.3%	216.1%	8.6%	8.7%	4.3%	11.1%	1.4%

※回答項目①～⑨の詳細は、P.44の全体回答結果を参照

◆アンケート結果（最も通学したい（させたい）と思う高校）の特徴

- 生徒、保護者ともに最も割合が高い学校は、「探究的な学びに重点を置いた普通科系」であった。
- 2番目に割合が高い学校は、保護者は「学問を横断的に学ぶ活動を重視する」や「グローバル教育を重視する」であるが、生徒は「学ぶ場所や学び方を自分で選択できる」であった。
- 中学生の生徒、保護者ともに「職業教育を主とする専門学校」が3番目に高かった。

◆再編整備の概要

令和7年度 ） 令和9年度	
令和10年度 ） 令和16年度	<p>【主な検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育校の実施形態の転換 ・セルフデザインハイスクールの設置 ・産業高校の設置 ・総合学科のあり方 ・小規模校の統合

◆令和7年度県立高校等募集学級数

学科等	普通科系	総合学科系	専門学科系	定時制通信制	募集学級計	学校数	中学校卒業見込者数
学級数	18	3	11	3	35	11	1,829



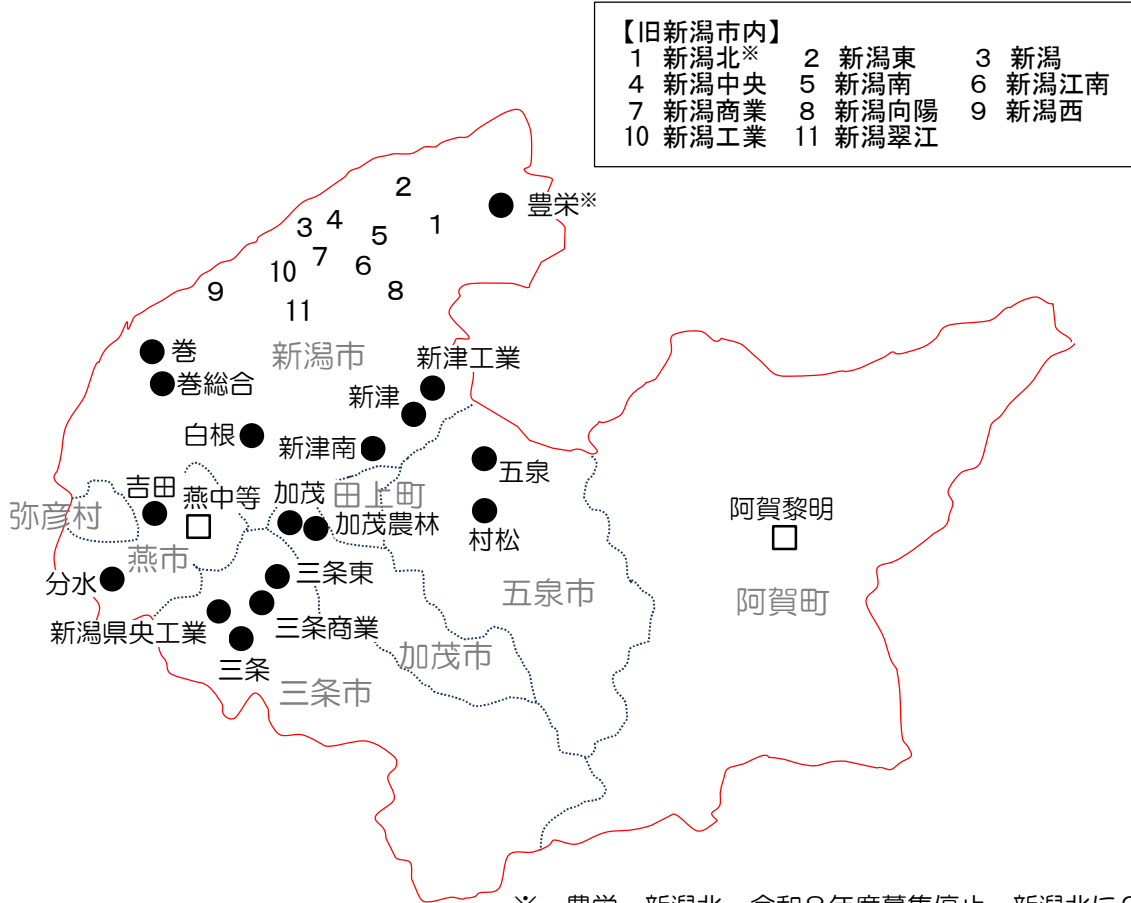
◆令和16年春のすがた

学科等	普通科系高校	専門学科系高校 (総合高校含む)	セルフデザイン ハイスクール	募集学級計	中学校卒業見込者数
学級数	17	8	3	28	1,505

エリア②

＜新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町＞

◆ 令和7年度に生徒募集を行う学校



※ 豊栄、新潟北 令和8年度募集停止、新潟北に2校を統合し新設校設置

◆ エリアの状況

市町村名	人口 (人)	就業人口 (人)	産業構造(就業人口構成比、%)			主要農産物 (5品目まで)	主要製造品 (5品目まで)
			第1次産業	第2次産業	第3次産業		
新潟市	766,259	402,267	3.2	21.5	75.3	水稻、大豆、大根、ねぎ、かぶなど	米菓、水産練製品、清酒、化学工業製品、製紙など
三条市	90,004	50,905	4.2	36.3	59.5	米、さつまいも、日本なし、西洋なし、ももなど	作業工具、利器工器具・手道具、金属プレス製品、建築用金属製品、ガラス機器・石油機器
加茂市	23,321	12,869	6.9	34.4	58.7	コメ、果実(モモ、ナシ、ルレクチエ)	桐箆筒、家具、木工製品、家電製品、ニット製品など
燕市	74,453	42,663	3.6	41.2	55.2	米、きゅうり、トマト、たまねぎ、えだまめなど	金属洋食器、金属ハウスウェア(テーブルウェア、キッチンウェア)
五泉市	44,402	24,704	8.6	36.7	54.6	米、さといも、いちご、れんこん、牡丹など	ニット製品、絹織物
弥彦村	7,314	4,273	7.3	35.7	57.0	米、枝豆、ぶどう、椎茸、苺	金属洋食器
田上町	10,466	5,544	5.9	32.3	61.8	米、野菜、桃、梅	焼瓦、木工製品、ニット製品
阿賀町	8,628	4,499	8.0	31.9	60.1	米、しいたけ、ナメコ、まいたけ、自然薯など	清酒、山菜加工品、味噌、漬物、切り餅など
エリア計 (対県割合)	1,024,847 (48.8%)	547,724 (48.2%)	3.7	25.7	70.6		

※人口は「令和6年10月1日現在新潟県推計人口」、その他の項目は「市町村要覧」(新潟県総務部市町村課、令和6年4月)による。

◆ 最も通学したい（させたい）と思う高校（アンケート結果から）

エリア②	①探究普通科系	②学問横断的	③地域社会課題	④グローバル教育	⑤職業教育専門	⑥複数専門学科	⑦特定分野	⑧自分で選択	⑨遠隔授業
高校生	125.6%	312.7%	4.7%	12.5%	10.3%	6.6%	9.5%	215.8%	2.1%
中学生	136.4%	6.2%	2.8%	7.0%	10.3%	6.9%	311.6%	216.9%	2.0%
保護者(高校生)	133.7%	216.4%	5.2%	315.0%	11.0%	8.1%	2.5%	7.1%	0.9%
保護者(中学生)	133.7%	216.5%	4.7%	314.6%	9.4%	7.8%	3.4%	9.0%	0.9%
保護者(小学生)	133.0%	216.2%	4.4%	315.5%	8.3%	6.8%	3.7%	11.5%	0.7%
保護者(保育所等)	134.1%	315.3%	5.1%	218.2%	6.4%	7.1%	3.3%	9.9%	0.8%

※回答項目①～⑨の詳細は、P.44の全体回答結果を参照

◆ アンケート結果（最も通学したい（させたい）と思う高校）の特徴

- 生徒、保護者ともに最も割合が高い学校は、「探究的な学びに重点を置いた普通科系」であった。
- 保護者、生徒（高校生）は「学問を横断的に学ぶ活動を重視する」割合が高い。
- 生徒は、「学ぶ場所や学ぶ方法を自分で選択できる」割合が高いのに対して、保護者は「グローバル教育を重視する」割合が高い。

◆ 再編整備の概要

令和7年度 ） 令和9年度	<ul style="list-style-type: none"> ・三条高校に理数科を設置するとともに、理数科内にメディカルコースを設置する。 ・新潟北高校と豊栄高校を統合する。 ・新潟北高校の校舎内に地元企業等と連携したデュアルシステムを取り入れたキャリア教育を特色とする高校（単位制による全日制課程普通科）を新たに設置する。
令和10年度 ） 令和16年度	<p>【主な検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフデザインハイスクールの設置 ・産業高校の設置 ・小規模校の統合

◆ 令和7年度県立高校等募集学級数

学科等	普通科系	総合学科系	専門学科系	定時制通信制	募集学級計	学校数	中学校卒業見込者数
学級数	96	10	29	1	136	30	8,744



◆ 令和16年春のすがた

学科等	普通科系高校	専門学科系高校 (総合高校含む)	セルフデザイン ハイスクール	募集学級計	中学校卒業見込者数
学級数	60	30	3	93	6,858

エリア③

＜長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村＞

◆ 令和7年度に生徒募集を行う学校



◆ エリアの状況

市町村名	人口 (人)	就業人口 (人)	産業構造(就業人口構成比、%)			主要農産物(5品目まで)	主要製造品(5品目まで)
			第1次産業	第2次産業	第3次産業		
長岡市	255,833	137,379	3.4	30.8	65.8	米、大豆、麦、そば、枝豆など	工作機械、食料品、電子部品、金属製品、鉄工鋳物など
柏崎市	76,086	40,330	2.9	35.1	62.0	米、玉ねぎ、枝豆、カリフラワー、プロッコリーなど	ピストンリング、伸線機、二次電池、金属製品、ポンプなど
小千谷市	32,092	18,097	6.2	39.0	54.7	水稻、そば、カリフラワー、メロン、スイカなど	精密機械、半導体、清酒、米菓、織物など
見附市	37,445	20,522	3.6	34.7	61.8	米、ユリ、アスパラガス、ニラ、クリなど	プラスチック製品、生産用機械器具、金属製品、ニット製品
出雲崎町	3,729	2,014	9.2	32.6	58.2	米、梅	自動車部品、段ボール、紙風船
刈羽村	4,161	2,252	4.9	35.3	59.9	米、桃	自動調節弁
エリア計 (対県割合)	409,346 (19.5%)	220,594 (19.4%)	3.6	32.7	63.7		

※人口は「令和6年10月1日現在新潟県推計人口」、その他の項目は「市町村要覧」(新潟県総務部市町村課、令和6年4月)による。

◆ 最も通学したい（させたい）と思う高校（アンケート結果から）

エリア③	①探究普通科系	②学問横断的	③地域社会課題	④グローバル教育	⑤職業教育専門	⑥複数専門学科	⑦特定分野	⑧自分で選択	⑨遠隔授業
高校生	128.2%	11.4%	4.0%	311.5%	11.4%	9.9%	6.9%	214.7%	2.0%
中学生	136.1%	5.1%	3.2%	6.5%	12.0%	7.8%	312.3%	215.3%	1.8%
保護者(高校生)	133.6%	214.8%	5.4%	314.6%	11.0%	9.8%	3.1%	7.0%	0.8%
保護者(中学生)	133.6%	215.1%	4.1%	313.5%	11.3%	9.0%	3.6%	9.1%	0.6%
保護者(小学生)	133.9%	215.2%	5.0%	313.5%	9.5%	7.9%	3.8%	10.4%	0.9%
保護者(保育所等)	134.1%	314.3%	5.3%	216.7%	8.1%	8.5%	2.2%	10.2%	0.6%

※回答項目①～⑨の詳細は、P.44の全体回答結果を参照

◆アンケート結果（最も通学したい（させたい）と思う高校）の特徴

- 生徒、保護者ともに最も割合が高い学校は、「探究的な学びに重点を置いた普通科系」であった。
- 保護者は「学問を横断的に学ぶ活動を重視する」や「グローバル教育を重視する」割合が高い。
- 生徒は、「学ぶ場所や学ぶ方法を自分で選択できる」割合が高い。

◆再編整備の概要

令和7年度 ） 令和9年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柏崎翔洋中等教育学校前期課程を募集停止とする。 ・ 柏崎高校に県立中学校を併設する。
令和10年度 ） 令和16年度	<p>【主な検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セルフデザインハイスクールの設置 ・ 総合学科のあり方 ・ 小規模校の統合

◆令和7年度県立高校等募集学級数

学科等	普通科系	総合学科系	専門学科系	定時制 通信制	募集学級計	学校数	中学校 卒業見込者数
学級数	35	7	17	5	64	18	3,557



◆令和16年春のすがた

学科等	普通科系高校	専門学科系高校 (総合高校含む)	セルフデザイン ハイスクール	募集学級計	中学校 卒業見込者数
学級数	24	19	4	47	2,826

エリア④

<十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町>

◆ 令和7年度に生徒募集を行う学校



◆ エリアの状況

市町村名	人口 (人)	就業人口 (人)	産業構造(就業人口構成比、%)			主要農産物(5品目まで)	主要製造品(5品目まで)
			第1次産業	第2次産業	第3次産業		
十日町市	45,865	26,548	11.0	29.4	59.6	魚沼産コシヒカリ、なめこ、えのき茸、 妻有ポーク、カサブランカなど	絹織物、そば、生産用機械器具、電子部 品、電気機械器具
魚沼市	31,853	18,185	9.2	33.2	57.6	米、ユリ、促成山菜、スイカ、そばなど	食料品、清酒、電子部品・デバイス、金 属製品
南魚沼市	52,052	29,330	12.0	27.8	60.1	南魚沼産コシヒカリ、八色スイカ、八色 シイタケ、まいたけ、えのきだけなど	自動車部品、産業用機械、清酒、織物
湯沢町	7,636	4,007	3.2	14.7	82.0	米、そば、山菜、かぐらなんばん	清酒
津南町	8,202	4,929	24.7	23.0	52.3	コシヒカリ、ユリ、雪下人蔘、アスパラ ガス、スイートコーンなど	木材、木製品、電気機械器具、窯業、土 石製品など
エリア計 (対県割合)	145,608 (6.9%)	82,999 (7.3%)	11.4	28.6	60.0		

※人口は「令和6年10月1日現在新潟県推計人口」、その他の項目は「市町村要覧」(新潟県総務部市町村課、令和6年4月)による。

◆ 最も通学したい（させたい）と思う高校（アンケート結果から）

エリア④	①探究普通科系	②学問横断的	③地域社会課題	④グローバル教育	⑤職業教育専門	⑥複数専門学科	⑦特定分野	⑧自分で選択	⑨遠隔授業
高校生	128.6%	10.0%	3.8%	9.3%	10.4%	9.7%	310.9%	215.0%	2.4%
中学生	135.3%	6.3%	4.2%	6.7%	9.3%	6.7%	312.4%	217.2%	1.8%
保護者(高校生)	131.2%	315.4%	6.4%	215.5%	8.7%	7.8%	3.3%	10.4%	1.4%
保護者(中学生)	128.7%	216.9%	5.2%	316.7%	8.6%	7.5%	4.5%	9.6%	2.4%
保護者(小学生)	128.9%	14.3%	4.1%	216.8%	7.6%	8.5%	3.5%	314.9%	1.4%
保護者(保育所等)	131.5%	315.9%	4.1%	220.9%	7.3%	6.8%	3.6%	9.1%	0.9%

※回答項目①～⑨の詳細は、P.44の全体回答結果を参照

◆ アンケート結果（最も通学したい（させたい）と思う高校）の特徴

- 生徒、保護者ともに最も割合が高い学校は、「探究的な学びに重点を置いた普通科系」であった。
- 保護者は「学問を横断的に学ぶ活動を重視する」や「グローバル教育を重視する」割合が高いが、保護者(小学生)は「学ぶ場所や学び方を自分で選択できる」割合も高い。
- 生徒は、「福祉・体育・音楽など特定分野の学びを重視する」や「学ぶ場所や学ぶ方法を自分で選択できる」割合が高い。

◆ 再編整備の概要

令和7年度 ） 令和9年度	・十日町高校に大学進学を重視した学究型コース（仮称）を設置する。
令和10年度 ） 令和16年度	【主な検討事項】 ・中高一貫教育校の実施形態の転換 ・セルフデザインハイスクールの設置 ・小規模校の統合

◆ 令和7年度県立高校等募集学級数

学科等	普通科系	総合学科系	専門学科系	定時制 通信制	募集学級計	学校数	中学校 卒業見込者数
学級数	20	3	3	3	29	10	1,172



◆ 令和16年春のすがた

学科等	普通科系高校	専門学科系高校 (総合高校含む)	セルフデザイン ハイスクール	募集学級計	中学校 卒業見込者数
学級数	16	4	2	22	936

エリア⑤

<糸魚川市、妙高市、上越市>

◆ 令和7年度に生徒募集を行う学校



◆ エリアの状況

市町村名	人口 (人)	就業人口 (人)	産業構造(就業人口構成比、%)			主要農産物(5品目まで)	主要製造品(5品目まで)
			第1次産業	第2次産業	第3次産業		
糸魚川市	37,445	20,447	5.1	35.7	59.2	コシヒカリ、ヨモギ、丸なす、トマト、きゅうりなど	化学工業製品、窯業製品、電子・電機・機械製品
妙高市	28,300	15,495	5.4	33.2	61.4	水稲、トマト、ナス、カボチャ、里芋	電子部品、酒、化学工業製品、石油ファンヒーター、エアコン
上越市	179,294	98,274	4.5	30.1	65.4	水稲、大豆、そば、えだまめ、ブロッコリーなど	化学製品、電子部品、金属製品、鉄鋼、生産用機械器具など
エリア計 (対県割合)	245,039 (11.7%)	134,216 (11.8%)	4.7	31.3	64.0		

※人口は「令和6年10月1日現在新潟県推計人口」、その他の項目は「市町村要覧」(新潟県総務部市町村課、令和6年4月)による。

◆ 最も通学したい（させたい）と思う高校（アンケート結果から）

エリア⑤	①探究普通科系	②学問横断的	③地域社会課題	④グローバル教育	⑤職業教育専門	⑥複数専門学科	⑦特定分野	⑧自分で選択	⑨遠隔授業
高校生	124.0%	8.8%	5.1%	11.7%	312.4%	10.0%	9.7%	215.8%	2.5%
中学生	130.1%	6.3%	4.0%	6.3%	313.6%	7.9%	12.0%	218.2%	1.6%
保護者(高校生)	134.8%	216.5%	4.3%	314.0%	10.8%	8.4%	2.8%	7.4%	1.0%
保護者(中学生)	132.2%	215.0%	4.6%	12.6%	313.3%	8.9%	5.0%	8.1%	0.4%
保護者(小学生)	128.7%	214.2%	4.8%	12.3%	11.2%	10.8%	4.8%	312.4%	0.9%
保護者(保育所等)	131.5%	215.4%	5.7%	313.9%	10.2%	10.5%	2.9%	8.9%	0.9%

※回答項目①～⑨の詳細は、P.44の全体回答結果を参照

◆ アンケート結果（最も通学したい（させたい）と思う高校）の特徴

- 生徒、保護者ともに最も割合が高い学校は、「探究的な学びに重点を置いた普通科系」であった。
- 保護者は「学問を横断的に学ぶ活動を重視する」や「グローバル教育を重視する」割合が高いが、保護者(小学生)は「学ぶ場所や学び方を自分で選択できる」割合も高い。
- 生徒は、「学ぶ場所や学ぶ方法を自分で選択できる」や「職業教育を主とする専門高校」の割合が高い。

◆ 再編整備の概要

令和7年度 ） 令和9年度	
令和10年度 ） 令和16年度	<p>【主な検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフデザインハイスクールの設置 ・産業高校の設置 ・総合学科のあり方 ・小規模校の統合

◆ 令和7年度県立高校等募集学級数

学科等	普通科系	総合学科系	専門学科系	定時制 通信制	募集学級計	学校数	中学校 卒業見込者数
学級数	16	6	15	2	39	12	2,110

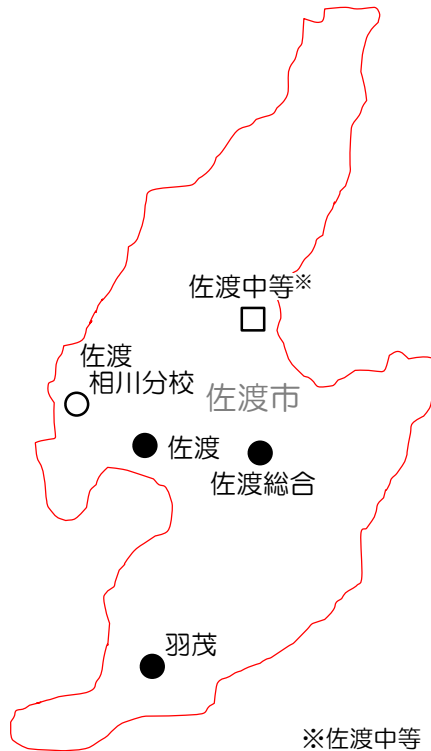


◆ 令和16年春のすがた

学科等	普通科系高校	専門学科系高校 (総合高校含む)	セルフデザイン ハイスクール	募集学級計	中学校 卒業見込者数
学級数	12	13	2	27	1,557

エリア⑥
 <佐渡市>

◆ 令和7年度に生徒募集を行う学校



※佐渡中等 令和8年度募集停止、
 佐渡高校両津キャンパス設置

◆ エリアの状況

市町村名	人口 (人)	就業人口 (人)	産業構造(就業人口構成比、%)			主要農産物(5品目まで)	主要製造品(5品目まで)
			第1次産業	第2次産業	第3次産業		
佐渡市 (対県割合)	46,605 (2.2%)	26,303 (2.3%)	18.0	15.6	66.5	米、柿、ルレクチェ	海産物、地酒、無名焼、竹細工、裂織

※人口は「令和6年10月1日現在新潟県推計人口」、その他の項目は「市町村要覧」(新潟県総務部市町村課、令和6年4月)による。

◆ 最も通学したい（させたい）と思う高校（アンケート結果から）

エリア⑥	①探究普通科系	②学問横断的	③地域社会課題	④グローバル教育	⑤職業教育専門	⑥複数専門学科	⑦特定分野	⑧自分で選択	⑨遠隔授業
高校生	129.7%	10.0%	3.1%	10.9%	9.5%	6.7%	314.3%	214.5%	1.4%
中学生	126.3%	4.8%	3.0%	6.5%	9.5%	5.2%	321.0%	221.2%	2.6%
保護者(高校生)	128.7%	11.5%	7.7%	215.3%	313.4%	6.9%	6.5%	7.7%	2.3%
保護者(中学生)	131.8%	314.6%	6.1%	215.2%	7.1%	7.6%	4.0%	11.1%	2.5%
保護者(小学生)	125.8%	311.3%	10.3%	220.6%	4.1%	10.3%	6.2%	10.3%	1.0%
保護者(保育所等)	127.7%	213.8%	8.5%	9.2%	10.8%	8.5%	5.4%	213.8%	2.3%

※回答項目①～⑨の詳細は、P.44の全体回答結果を参照

◆アンケート結果（最も通学したい（させたい）と思う高校）の特徴

- 生徒、保護者ともに最も割合が高い学校は、「探究的な学びに重点を置いた普通科系」であった。
- 保護者は「学問を横断的に学ぶ活動を重視する」や「グローバル教育を重視する」割合が高いが、保育所等の保護者は「学ぶ場所や学び方を自分で選択できる」割合も高い。
- 生徒は、「学ぶ場所や学ぶ方法を自分で選択できる」や「福祉・体育・音楽など特定分野の学びを重視する」の割合が高い。

◆再編整備の概要

令和7年度 ↳ 令和9年度	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡中等教育学校前期課程の募集を停止する。 ・佐渡中等教育学校の校舎内に佐渡高校両津キャンパス（単位制による全日制課程普通科）を設置する。
令和10年度 ↳ 令和16年度	<p>【主な検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフデザインハイスクールの設置 ・小規模校の統合

◆令和7年度県立高校等募集学級数

学科等	普通科系	総合学科系	専門学科系	定時制通信制	募集学級計	学校数	中学校卒業見込者数
学級数	7	3	0	1	11	5	370



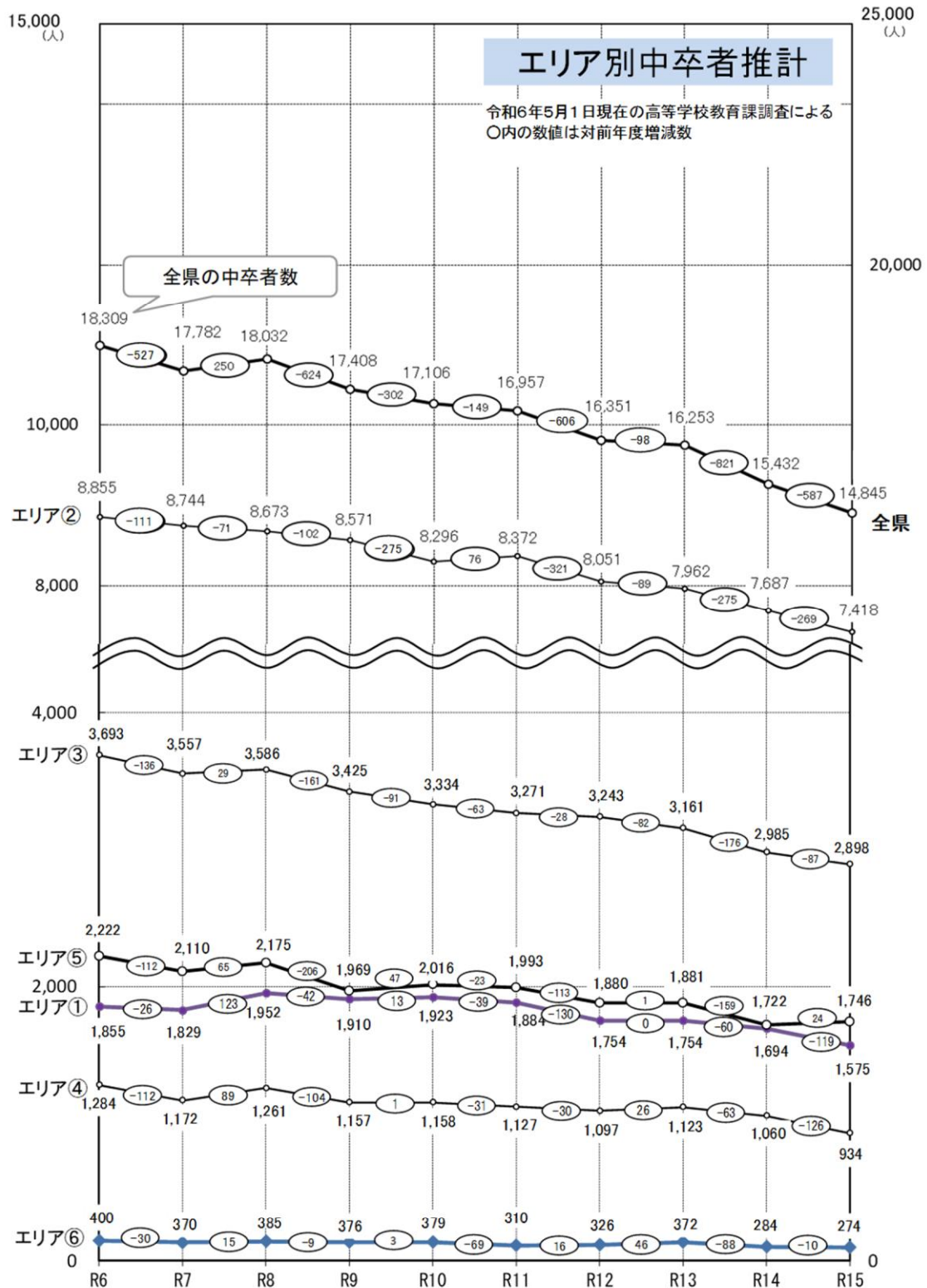
◆令和16年春のすがた

学科等	普通科系高校	専門学科系高校 (総合高校含む)	セルフデザイン ハイスクール	募集学級計	中学校卒業見込者数
学級数	4	3	1	8	246

【資料編】

I	中学校卒業生数の見込み【令和6年春～令和15年春】	・・・・・・・・38
II	中学校卒業生数と学校数の推移	・・・・・・・・39
III	「高等学校に関するアンケート」結果(抜粋)	・・・・・・・・40

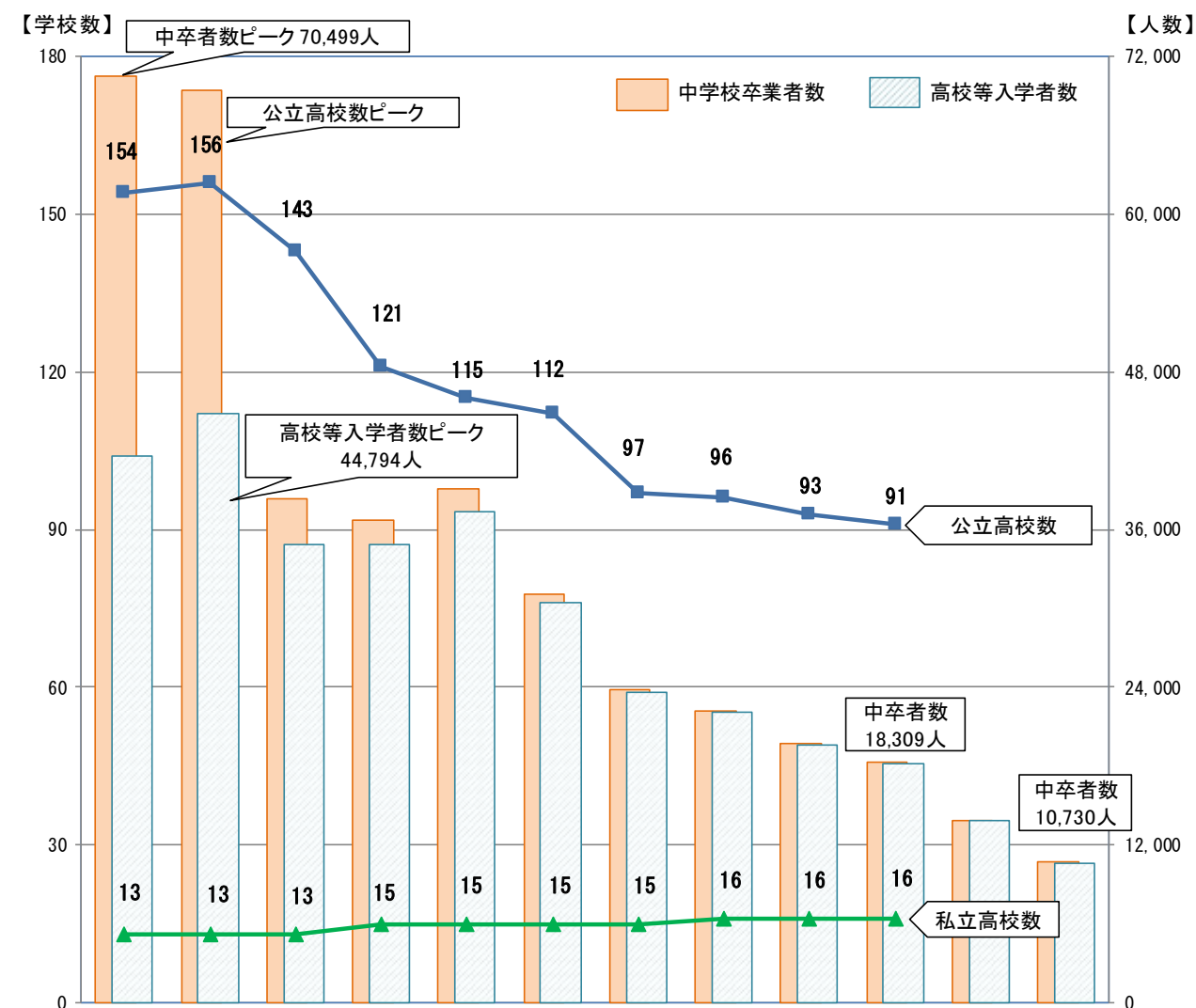
I 中学校卒業生数の見込み【令和6年春～令和15年春】



市町村一覧

エリア名	市町村名
エリア①	新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村
エリア②	新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町
エリア③	長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村
エリア④	十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町
エリア⑤	糸魚川市、妙高市、上越市
エリア⑥	佐渡市

Ⅱ 中学校卒業生数と学校数の推移



年春	S38	S40	S50	S60	H1	H11	H21	H26	H31	R6	R16	R21
中学校卒業生	70,499	69,447	38,333	36,665	39,129	31,108	23,848	22,252	19,716	18,309	(13,928)	(10,730)
高校等入学者	41,622	44,794	34,836	34,873	37,393	30,392	23,624	22,125	19,644	18,216	(13,858)	(10,676)
高校等進学率	59.0%	64.5%	90.9%	95.1%	95.6%	97.7%	99.1%	99.4%	99.6%	99.5%	(99.5%)	(99.5%)

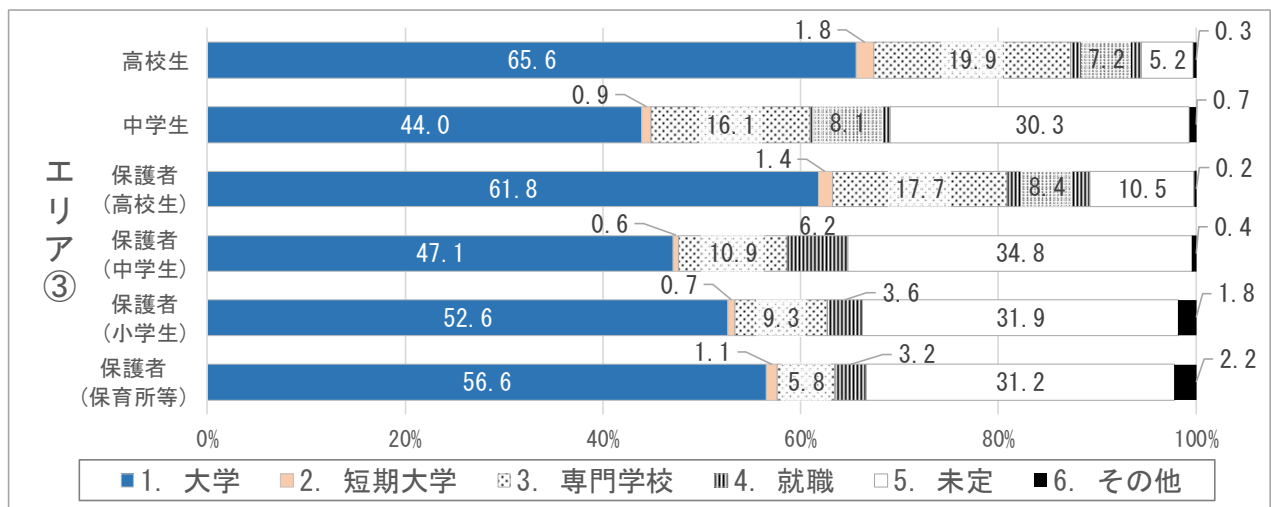
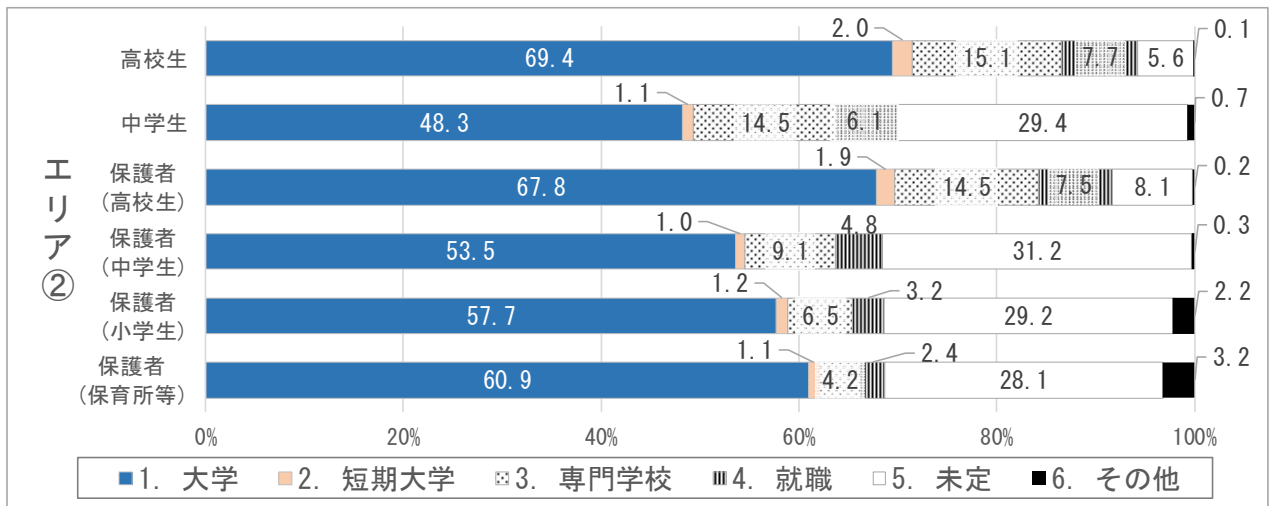
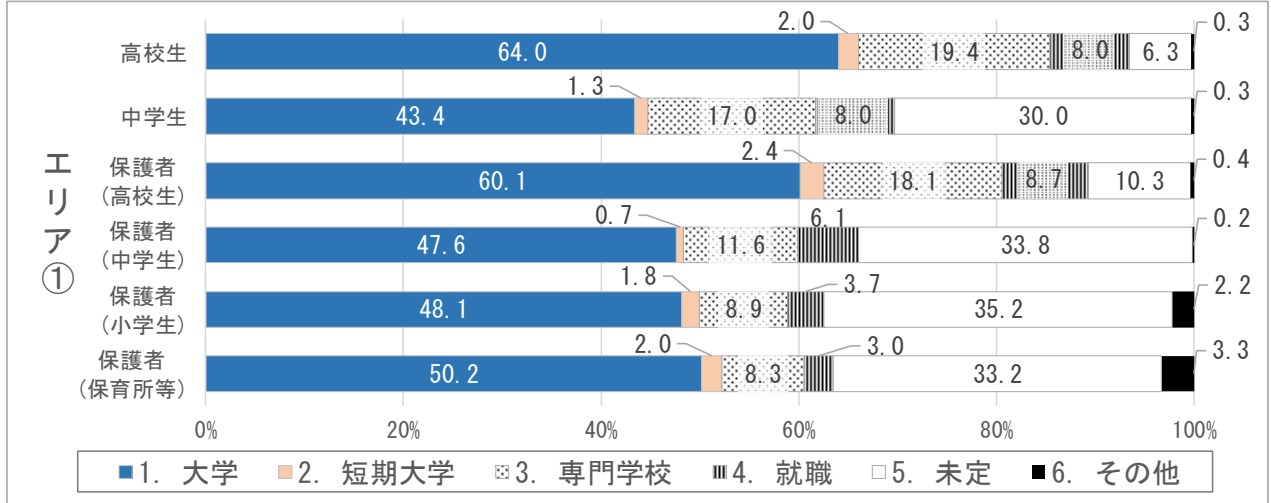
※ 数値は、「学校基本調査」による。R11春以降は、推計値である。高校数は、分校及び中等教育学校を含む。

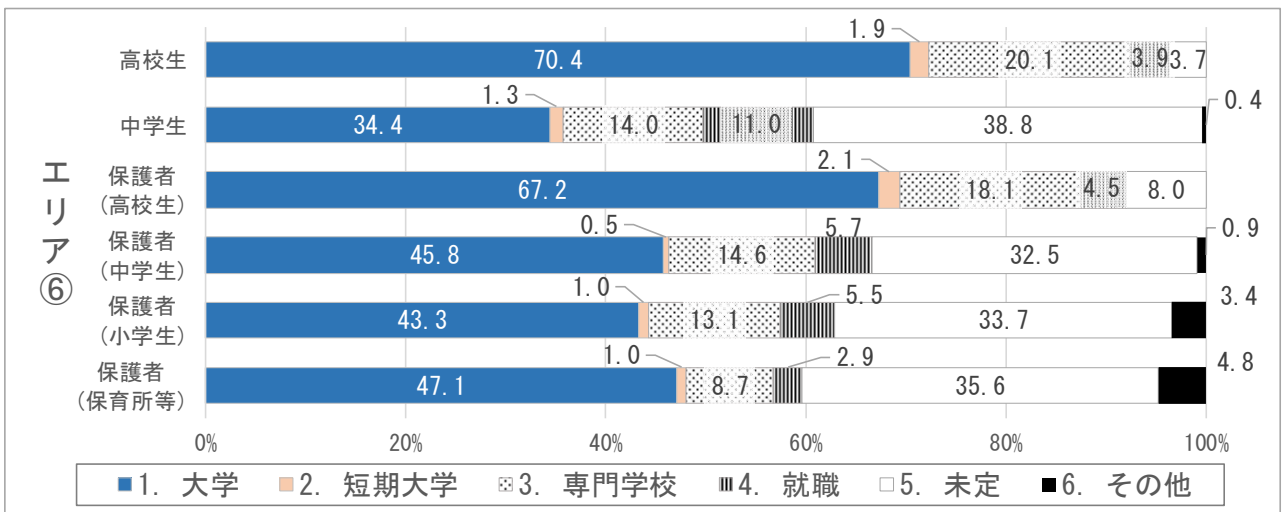
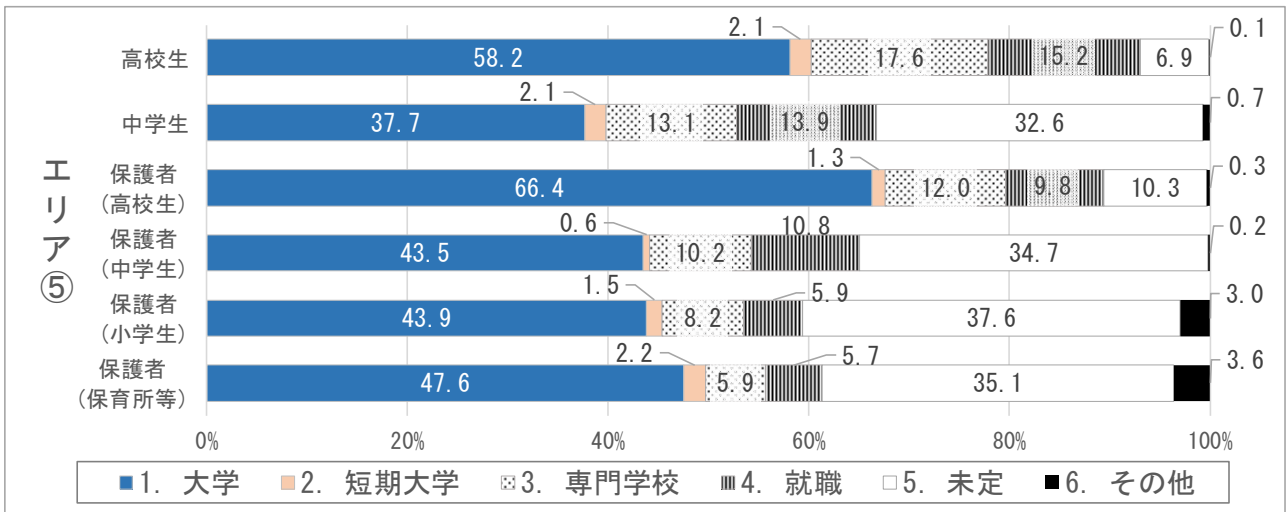
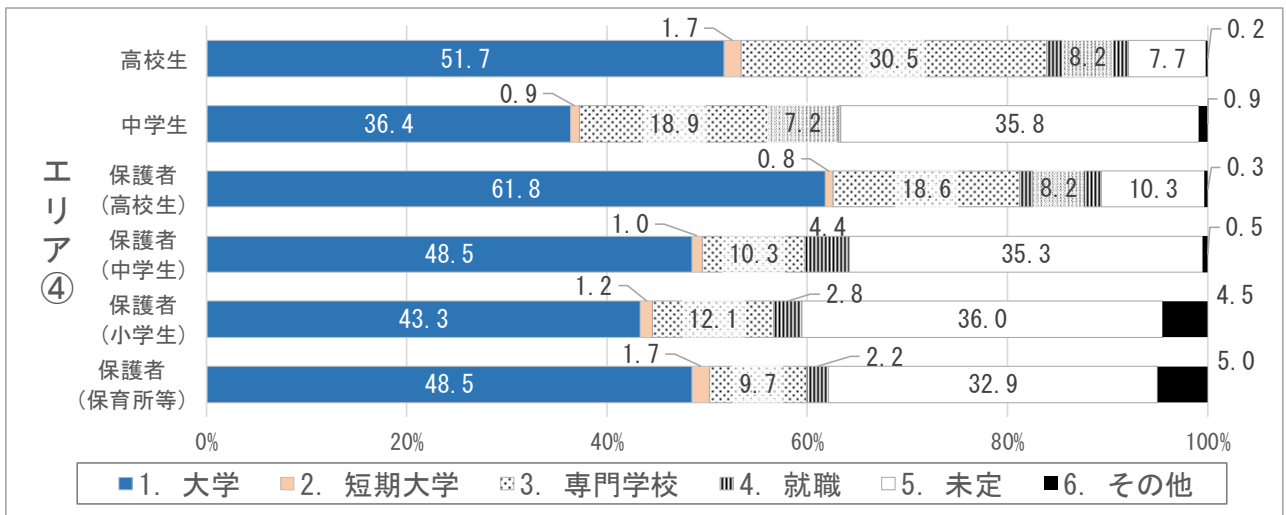
Ⅲ 「高等学校に関するアンケート」(県内対象) 結果 (抜粋)

※四捨五入した数値を使用しているため、合計の数値と内訳の数値の合計と一致しないことがある

【生徒(高校生、中学生)、保護者(高校生、中学生、小学生、保育所等)】

Q 高校等卒業後の進路希望について





◆その他の回答（主な複数回答）

・保護者（小学生、保育所等）：本人の希望、意思を尊重したい。

- 割合の差はあるが、ほとんどのエリア、回答区分で「大学」「専門学校」「就職」の順に割合が高い。
- エリア⑤の中学生の生徒、保護者においては、「専門学校」よりも「就職」の割合が高い。

【生徒（高校生、中学生）、保護者（高校生、中学生、小学生、保育所等）】

Q 進学先の高校を選ぶときに何を重視すること（したこと）

※ 複数回答可

重視する（したこと）	① 自分の（お子様の）学力にあっている	② 通学に便利な場所にある	③ 教育方針や校風が良い	④ 大学への進学実績が良い	⑤ 入りたい部活動がある	⑥ 世間での評価が高い	⑦ 施設や設備が充実している	⑧ 特色ある授業が行われている	⑨ 先生の指導が丁寧である	⑩ 部活動が盛んである	⑪ 行事（文化祭、体育祭等）が活発	⑫ 就職の実績が良い	⑬ 取りたい資格が取れる	⑭ 友だちも受検する	⑮ 友達や知り合いが在学している	⑯ 探究的な学びの活動が充実している	⑰ 海外への修学旅行がある	⑱ 補充指導などの学習サポートが充実している	⑲ その他
高校生	1 70.3	2 43.4	3 21.4	18.5	14.4	12.1	17.4	14.1	12.1	7.8	18.8	9.2	15.2	13.9	9.7	4.7	3.9	3.6	0.8
中学生	1 76.3	2 46.7	3 37.2	21.9	35.2	24.8	35.1	15.7	34.2	23.8	3 40.1	13.7	20.0	22.4	19.4	8.4	10.2	9.4	0.5
保護者 (高校生)	1 78.6	2 51.5	3 27.1	26.2	15.5	9.3	10.2	12.7	15.0	6.4	6.3	8.6	10.5	4.1	3.3	6.2	2.3	5.6	2.0
保護者 (中学生)	1 85.2	2 63.1	3 43.9	29.1	22.8	12.4	22.6	15.4	35.2	11.1	10.4	8.7	11.7	2.9	3.7	10.2	2.8	13.2	1.1
保護者 (小学生)	1 86.3	2 60.0	3 52.1	22.1	22.2	12.0	31.9	20.3	51.0	11.5	14.5	10.0	21.0	3.0	4.9	19.8	5.0	22.5	1.2
保護者 (保育所等)	1 70.8	2 48.8	3 45.8	21.9	22.8	11.7	33.2	16.7	45.5	12.9	15.3	8.9	21.1	3.1	5.8	18.9	6.0	17.8	0.9

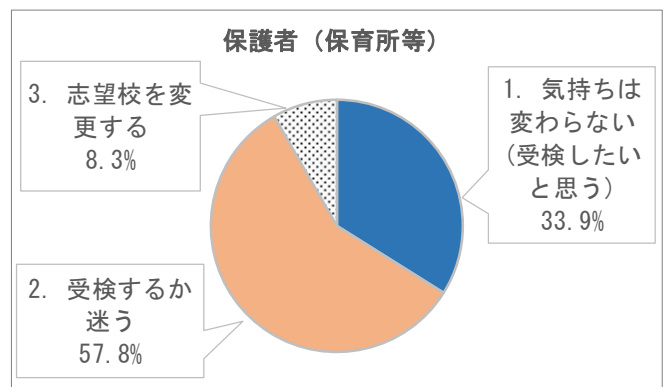
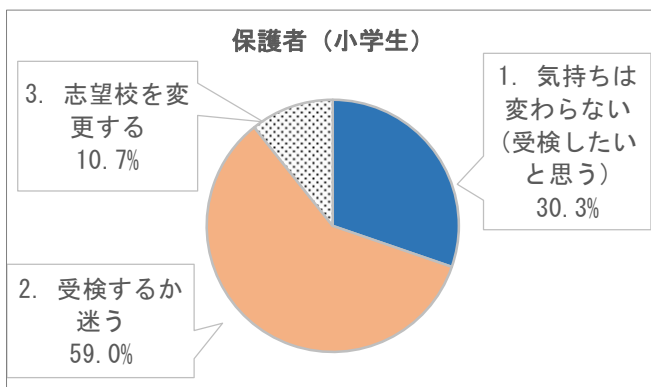
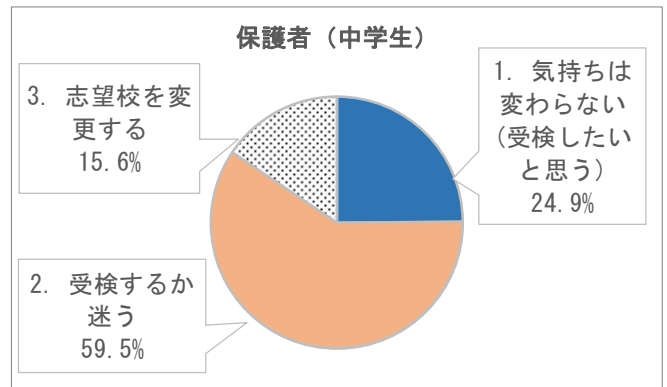
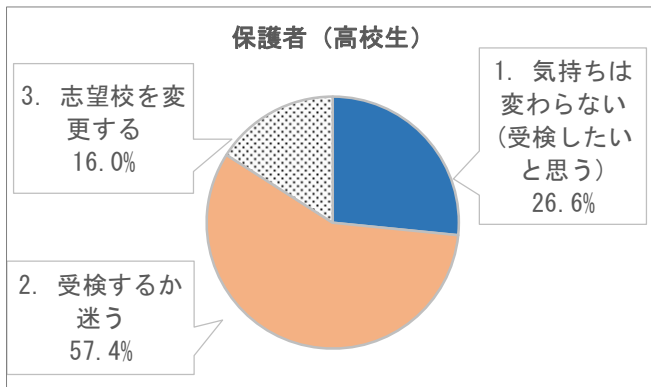
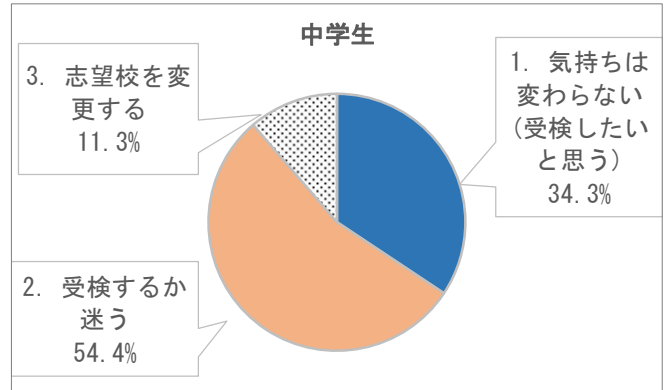
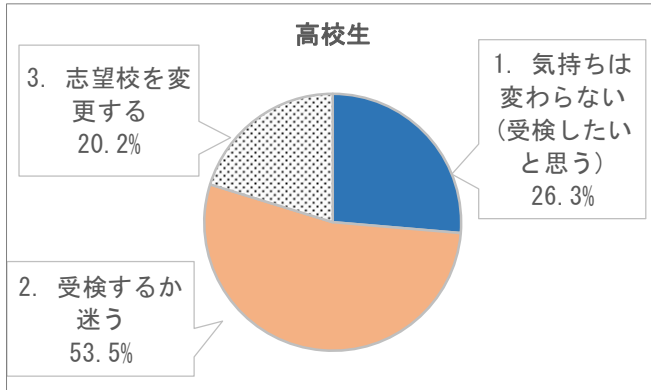
◆ その他の回答（主な複数回答）

- ・ 高校生：学びたい分野が学べる、自分のやりたいことができる
- ・ 中学生：兄姉が通っている（通っていた）、将来なりたい職業につながる
- ・ 保護者：本人の希望や意思を尊重する

- 生徒、保護者ともに「自分の（お子様の）学力にあっている」が最も高く、次いで「通学に便利な場所にある」の割合が高い。
- 中学生以外は、3番目に「教育方針や校風がよい」の割合が高く、中学生は「行事が活発」の割合が高い。
- 生徒の「友達が受検する」「友達や知り合いが在学している」の割合に対して、保護者の割合は低い。

【生徒（高校生、中学生）、保護者（高校生、中学生、小学生、保育所等）】

Q 志望校が自宅から遠い場合、志望する（受検させたい）気持ちはどうなるか。



- 生徒、保護者ともに「受検するか迷う」割合が最も高く、いずれも半数以上を占める。
- 実際に受検をし、現在通学している高校生が「志望校を変更する」割合が他の回答区分よりも高い。

【生徒（高校生、中学生）、保護者（高校生、中学生、小学生、保育所等）、企業・大学関係】

Q 次のような学校または学科についてどのように感じるか。

※「とても通学したい（させたい）」と「まあ通学した（させたい）」を合わせた回答の割合

	学置① 科い探 究た普 通科系 びの学 重校点 ・を	動② を学問 を重視 する横 断的学 校・学 ぶ科活	校あ③ ・う地 域動社 を会の 重視課 題に向 き	す④ るグロ 校ーバ ル学教 育を重 視	門⑤ 高職 校業 教育を 主とす る専	学⑥ 校複 数の専 門学科 をおく	る特⑦ 学定福 校分社 ・野・ 学の体 び育・ を音 重視楽 など	分⑧ で学 ぶ場 所や 学 び方 を自	学⑨ 校遠 隔授 業を 取り 入れた
高校生	1 69.4	2 65.1	56.6	47.8	54.5	54.1	52.4	3 61.3	45.5
中学生	1 75.1	3 60.1	54.0	42.1	52.9	52.1	53.2	2 63.6	42.1
保護者(高校生)	2 73.1	1 73.7	3 65.2	59.6	57.1	56.5	46.9	42.4	33.1
保護者(中学生)	1 75.7	2 73.8	3 65.5	57.6	58.5	58.4	48.7	44.1	34.7
保護者(小学生)	1 72.3	2 69.8	3 59.9	56.3	54.1	55.2	49.2	44.4	35.0
保護者(保育所等)	1 71.3	2 69.5	3 60.3	60.2	54.4	55.6	50.9	45.6	36.6
企業・大学関係者	1 88.2	1 88.2	1 88.2	52.9	79.4	70.6	55.9	55.9	64.7 (%)

○ 生徒、保護者、企業・大学関係者いずれも「探究的な学びに重点を置いた普通科系」が最も高い。

○ 生徒は「学ぶ場所や学び方を自分で選択できる」の割合が高いのに対し、保護者は「学問を横断的に学ぶ活動を重視する」または「地域社会の課題に向きあう活動を重視する」の割合が高い。

Q ①～⑨の高校の中で、最も通学したい（させたい）と思う高校

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
高校生	1 26.3	11.1	4.5	3 11.7	11.0	8.6	9.3	2 15.4	2.1
中学生	1 34.3	6.0	3.2	6.8	11.4	7.1	3 12.5	2 16.7	1.9
保護者(高校生)	1 33.1	2 15.5	5.3	3 14.7	11.0	8.8	2.9	7.6	1.0
保護者(中学生)	1 33.1	2 15.8	4.5	3 13.8	10.6	8.3	3.8	9.2	0.9
保護者(小学生)	1 32.3	2 15.2	4.7	3 14.2	9.1	8.1	4.0	11.6	0.8
保護者(保育所等)	1 33.2	3 15.0	5.1	2 17.3	7.5	8.0	3.2	9.9	0.8
企業・大学関係者	1 59.4	3 9.4	2 12.5	3.1	9.4	3.1	0.0	0.0	3.1 (%)

- 生徒、保護者、企業・大学関係者いずれも「探究的な学びに重点を置いた普通科系」が最も高い。
- 生徒は「学ぶ場所や学び方を自分で選択できる」の割合が高いのに対し、保護者は「学問を横断的に学ぶ活動を重視する」または「グローバル教育を重視する」の割合が高い。

Q 通学したい（させたい）と思った理由について

※ 回答の割合が高い項目について（主なもの）

①探究的な学びに重点を置いた普通科系

- ・ 偏りなく様々な学問を学ぶことで自分がどのような分野に興味を持てるのか見つけていきやすい（生徒）
- ・ 主体的な学習態度を育てることにつながる（保護者）

②学問を横断的に学ぶ活動を重視する

- ・ 幅広い学問を学ぶことで将来の可能性や視野が広がる、多面的に物事を考えられる（生徒・保護者）

④グローバル教育を重視する

- ・ 英語や他文化理解が大事であり、視野や世界観を広がる（生徒・保護者）

⑧学ぶ場所や学び方を自分で選択できる

- ・ 自分のペースで、自分に合った勉強できるのはよい（生徒）
- ・ 病気や体調面の関係で全日制での通学が難しい人のために、通学の仕方をもっと選択肢があれば、より意欲的に学習できる（生徒）

Q ①～⑨の高校以外に自宅から遠くても通学しよう（させたい）（魅力的で県外からも入学が増える）と思う高校像について

※ 自由記述

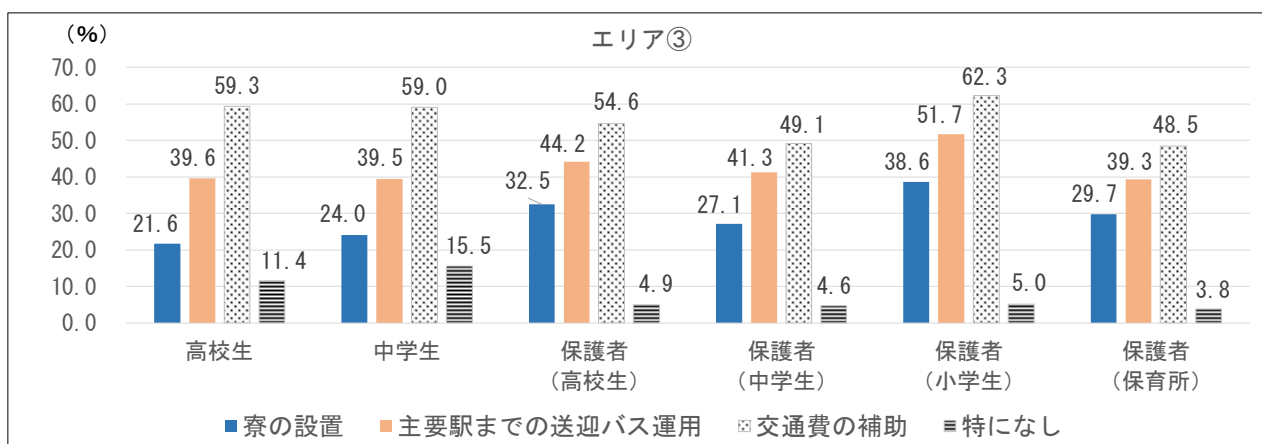
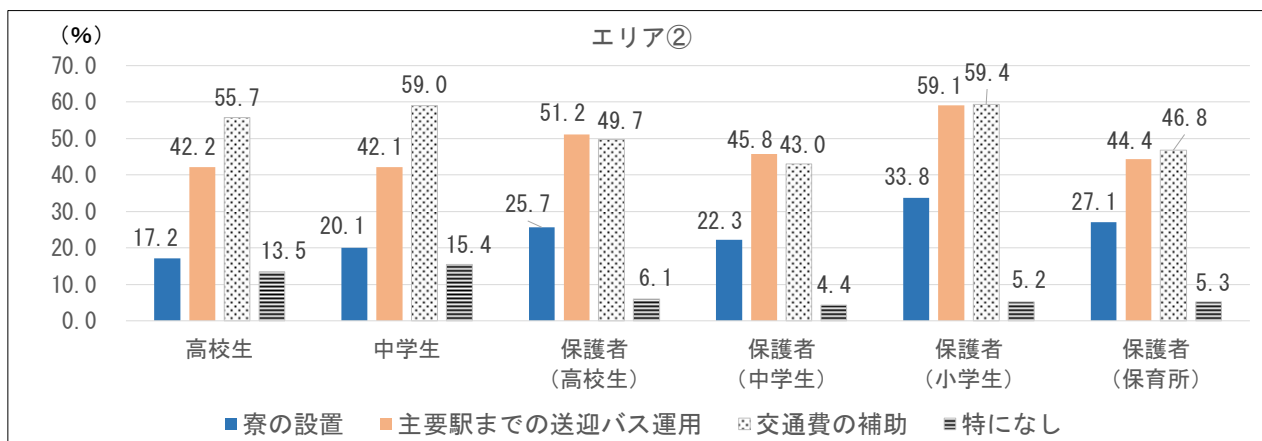
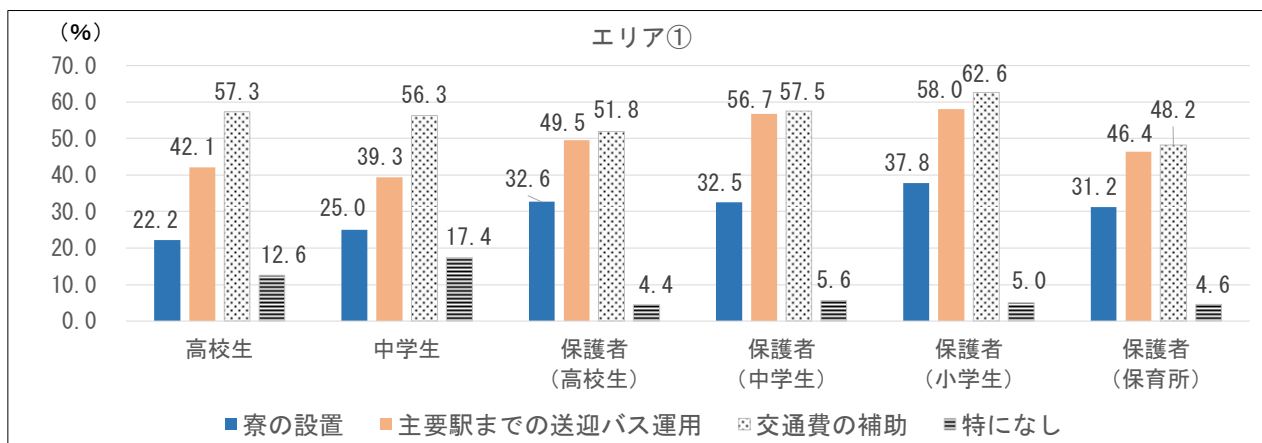
◆ 主な複数回答のキーワード

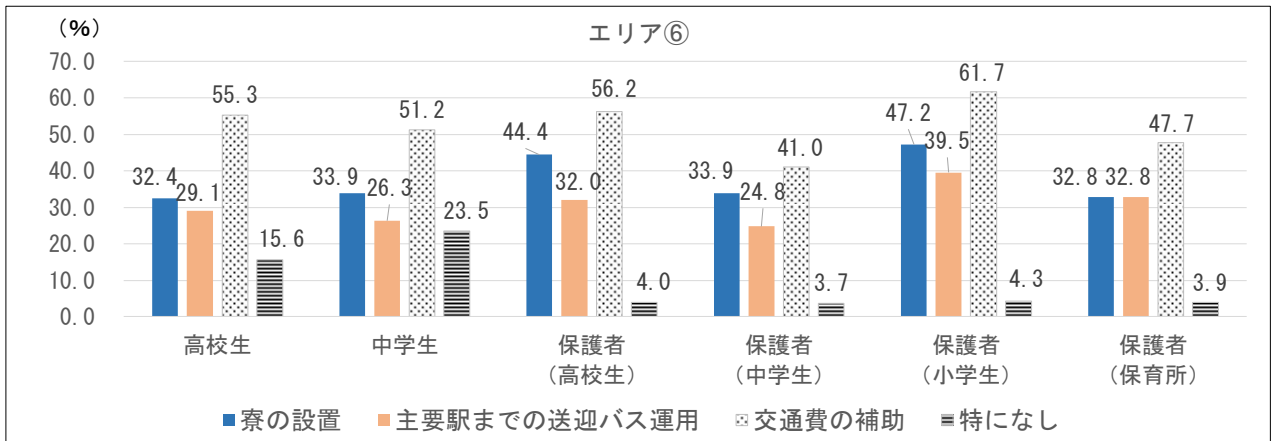
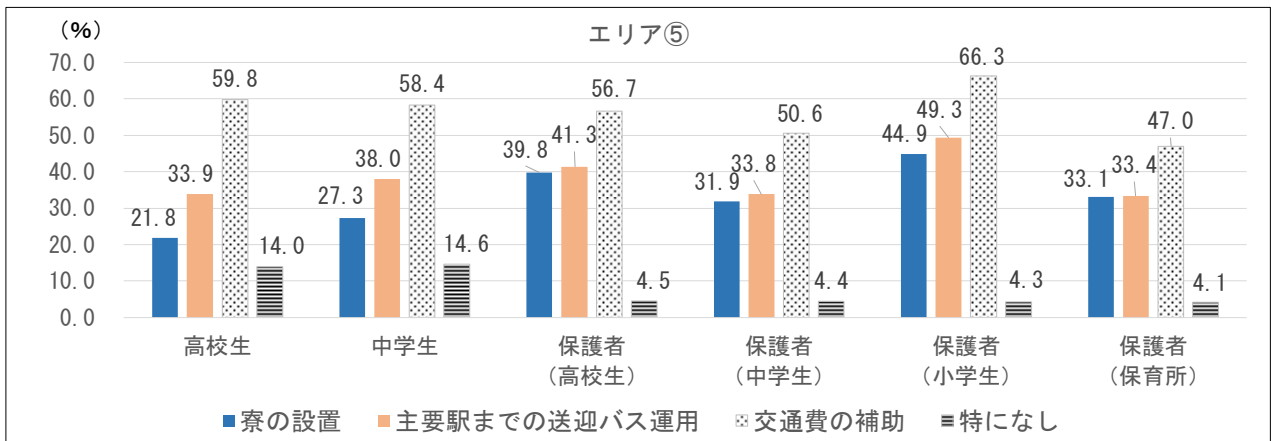
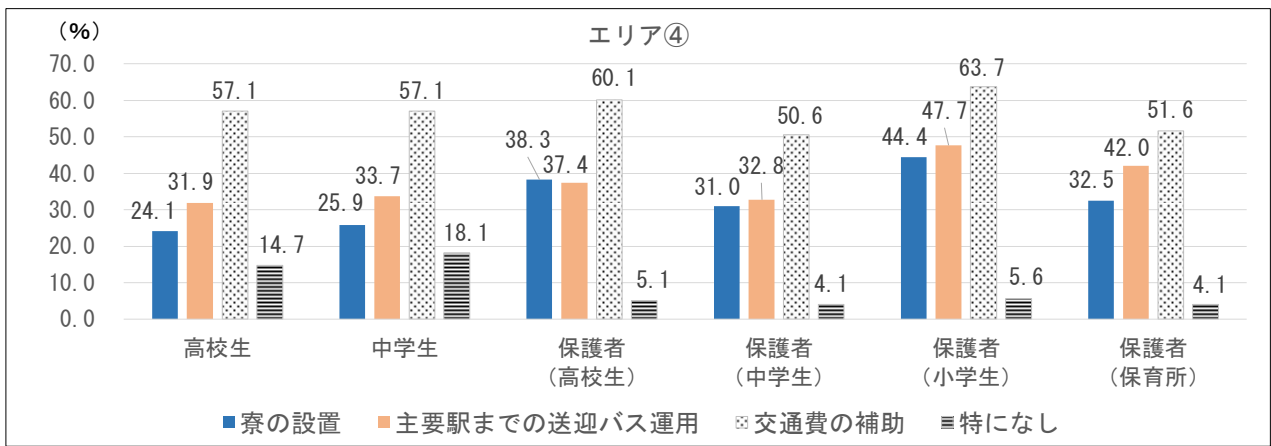
- ・ インターナショナルスクール、グローバル教育に特化、企業と提携、1クラス20～30人程度の学校、医療・福祉・看護の実習、オンライン学習、AI、プログラミング、ITリテラシー、eスポーツ、ゲーム制作、アニメ、イラスト、デザイン、美術、スポーツに特化

【生徒（高校生、中学生）、保護者（高校生、中学生、小学生、保育所等）】

Q 通学したい（させたい）と思った高校が自宅から遠かった場合、どのような条件があれば通学したい（させたい）気持ちが高まるか。

※ 複数回答可





◆その他の回答（主な複数回答） ※「その他」の回答の割合は1.0%未満

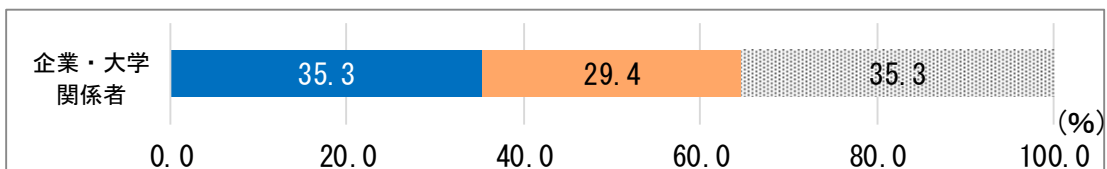
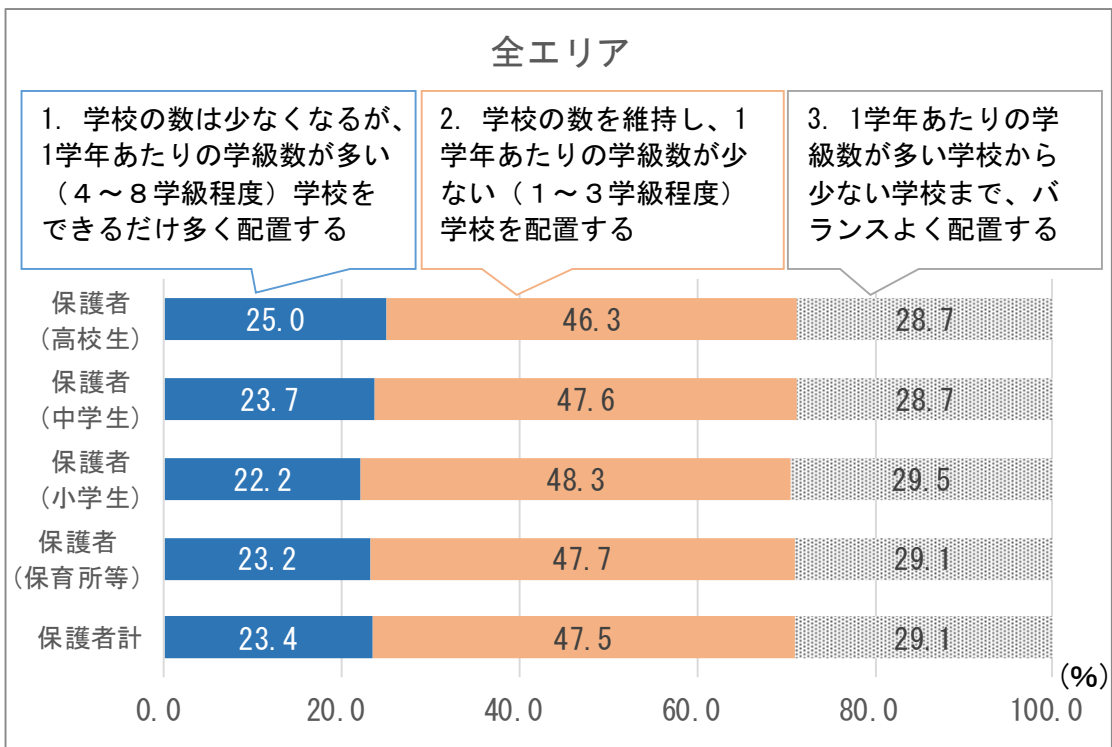
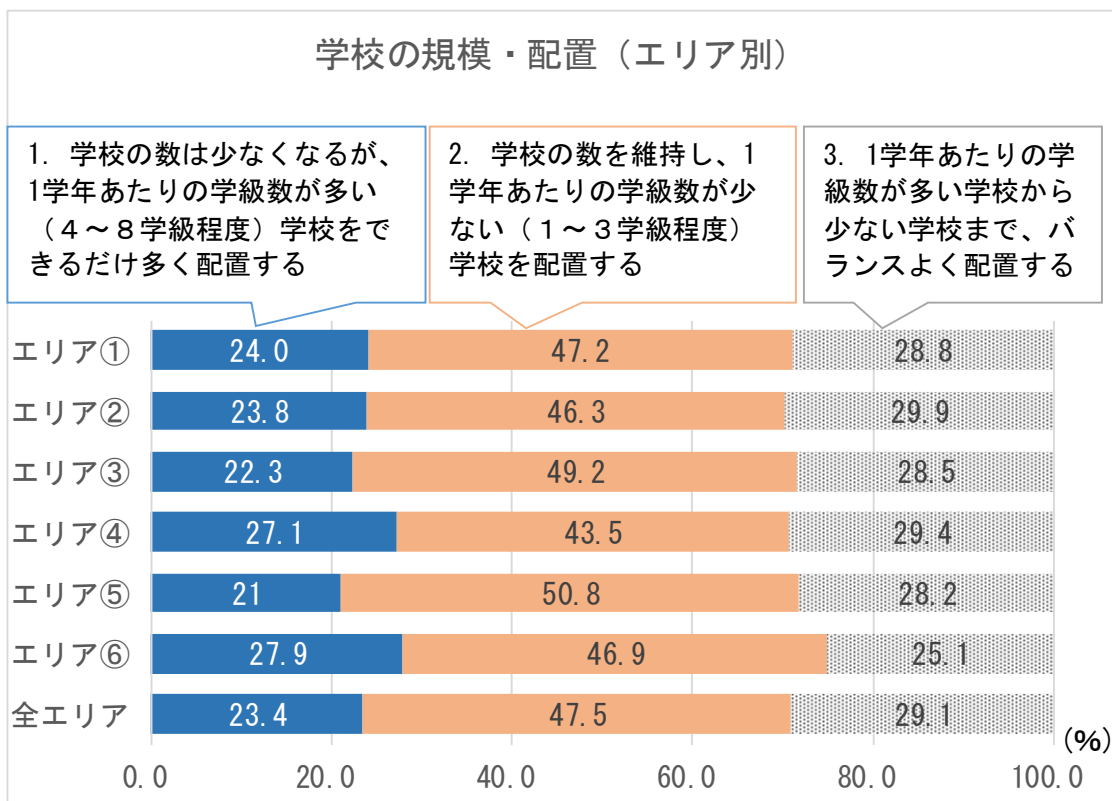
- ・生徒：オンライン授業、学費・生活費等の補助、駅から近い
- ・保護者：オンライン授業、学費・生活費等の補助、本人の希望や意思

○ いずれの地域においても、生徒は「交通費の補助」の割合が最も高い。保護者も同じような傾向にあるが、エリア②の保護者（高校生、中学生）については「主要駅までの送迎バス運用」の方が高い。

○ エリア⑥では、生徒、保護者ともに「主要駅までの送迎バス運用」よりも「寮の設置」と回答した割合の方が高い。

【保護者（高校生、中学生、小学生、保育所等）、企業・大学関係者】

Q 学校の規模や配置についてどのような対応が望ましいと考えるか。



【保護者（保育所等）、企業・大学関係者】

Q 前述の質問（学校の規模・配置）の理由について（複数回答があった主なもの）

1. 学校の数は少なくなるが、1学年あたりの学級数が多い（4～8学級程度）学校をできるだけ多く配置する。
 - ・生徒数が多い方が部活や行事が盛り上がる、勉強やスポーツで競い合うことができる。
 - ・多くの他者とのかかわる機会が期待でき、多様な価値観に触れたり、協調性を学んだりすることが期待できる。
 - ・学校施設の維持、教員の確保等の面から学校数は減らすべきであり、1校あたりの教員数が多いことで、教員間の切磋琢磨による教育の質の向上や、学習指導や進路指導において、多様な生徒のニーズへの対応が期待できる。

2. 学校の数を維持し、1学年あたりの学級数が少ない（1～3学級程度）学校を配置する。
 - ・一人一人の生徒に教員の目が行き届き、丁寧で細やかな教育が期待できる。
 - ・近くに通える学校がなくなってしまう、遠方の学校では、交通費や寮費などの費用が多くかかってしまう。
 - ・近隣でいろいろな学校選び（学力レベルの違いや、特色の違いなど）の選択肢がほしい。

3. 1学年あたりの学級数が多い学校から少ない学校まで、バランスよく配置する。
 - ・子どもが持つ性格や特性に合わせて学校を選ぶことができる、という視点や地域の状況などから、学校の規模・配置に幅（多様性）があったほうがよい。
 - ・学校の規模の大小によってそれぞれ利点がある。各高校の特色を出すことのできるよう、様々な規模の学校があるほうがよい。

○ 学校規模については、様々な意見があり、多様な選択肢を用意する必要がある。教育環境や学びの選択肢の充実に関する事、通学に配慮した学校の配置に関する意見が多かった。

Ⅲ-2 「高等学校に関するアンケート」(県外対象) 結果 (抜粋)

※ 県外生徒：県外の中学生・高校生、県外保護者：県外の中学生・高校生の保護者

Q 進学先の高校を選ぶときに重視する(した)こと

※ 複数回答可

重視する(した)こと	① 自分の(お子様の)学力にあっている	② 通学に便利な場所にある	③ 教育方針や校風が良い	④ 大学への進学実績が良い	⑤ 入りたい部活動がある	⑥ 世間での評価が高い	⑦ 施設や設備が充実している	⑧ 特色ある授業が行われている	⑨ 先生の指導が丁寧である	⑩ 部活動が盛んである	⑪ 行事(文化祭、体育祭等)が活発	⑫ 就職の実績が良い	⑬ 取りたい資格が取れる	⑭ 友だちも受検する	⑮ 友達や知り合いが在学している	⑯ 探究的な学びの活動が充実している	⑰ 海外への修学旅行がある	⑱ 補充指導などの学習サポートが充実している	その他
県外生徒	1 66.7	2 40.9	26.9	3 27.6	17.3	11.3	19.2	14.4	18.6	10.9	11.5	10.4	11.8	4.7	5.9	7.9	4.2	7.2	0.8
県外保護者	1 68.4	2 45.3	3 32.9	29.2	12.6	12.2	20.4	14.4	22.9	10.5	10.8	11.3	9.1	4.1	4.4	9.4	3.4	9.8	1.0 (%)

- 生徒、保護者ともに「自分の(お子様の)学力にあっている」が最も高く、次いで「通学に便利な場所にある」の割合が高い。
- 生徒は、3番目に「大学への進学実績が良い」の割合が高く、保護者は「教育方針や校風が良い」の割合が高い。

Q 次のような学校または学科についてどのように感じるか。

※ 「とても通学したい(させたい)」と「まあ通学した(させたい)」を合わせた回答の割合

	① 探究的な学びに重点を置いた普通科の学校・学科	② 学問を横断的に学ぶ活動を重視する学校・学科	③ 地域社会の課題に向き合う活動を重視する学校・学科	④ グローバル教育を重視する学校・学科	⑤ 職業教育を主とする専門高校	⑥ 複数の専門学科をおく学校	⑦ 福祉・体育・音楽など特定分野の学びを重視する学校・学科	⑧ 学ぶ場所や学び方を自分で選択できる学校	⑨ 遠隔授業を取り入れた学校
県外生徒	1 62.5	2 59.8	44.6	3 53.0	42.0	38.6	35.7	43.5	33.6
県外保護者	1 71.0	2 68.1	53.1	3 61.8	46.3	44.5	37.3	45.6	34.0 (%)

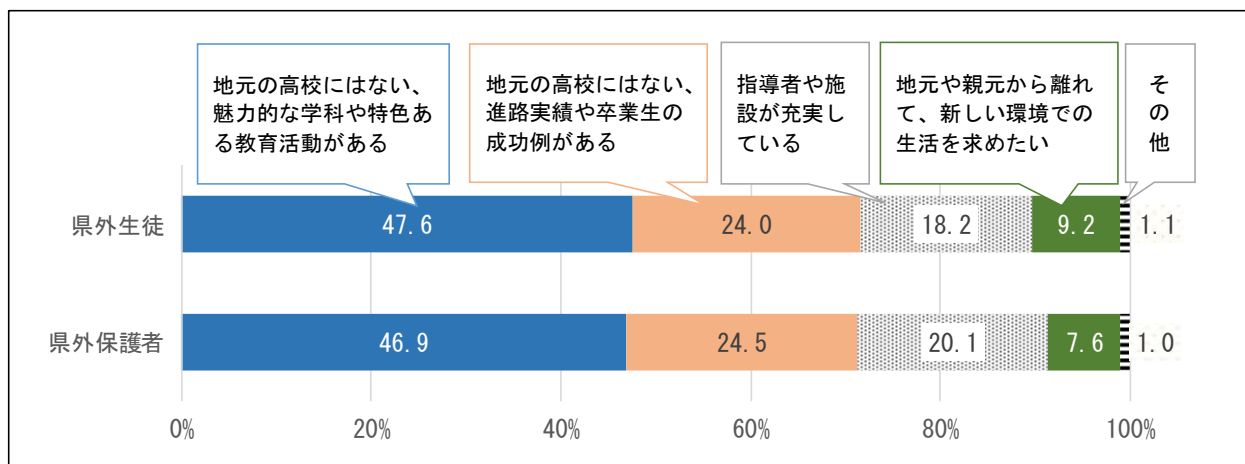
Q ①～⑨の高校の中で、最も通学したい（させたい）と思う高校

	① 探究的な学びに重点を置いた普通科系	② 学問を横断的に学ぶ活動を重視する	③ 地域社会の課題に向き合う活動を重視する	④ グローバル教育を重視する	⑤ 職業教育を主とする専門高校	⑥ 複数の専門学科をおく	⑦ 福祉・体育・音楽など特定分野の学びを重視する	⑧ 学ぶ場所や学び方を自分で選べる	⑨ 遠隔授業を取り入れた
県外生徒	1 23.4	3 11.8	6.1	2 15.6	6.7	4.6	4.2	5.1	1.1
県外保護者	1 21.6	3 14.5	5.0	2 17.0	7.3	4.0	3.3	4.9	1.2

(%)

○ 生徒、保護者ともに「探究的な学びに重点を置いた普通科系」、「グローバル教育を重視する」、「学問を横断的に学ぶ活動を重視する」の順に割合が高い。

Q 自分の住む都県以外の高校に入学する（させる）とした場合の動機について



○ 生徒、保護者ともに「地元の高校にはない、魅力的な学科や特色ある教育活動がある」の割合が最も高く、半数近くを占める。

Q 新潟県で全国募集している高校で、通ってみたい（通わせてみたい）高校について

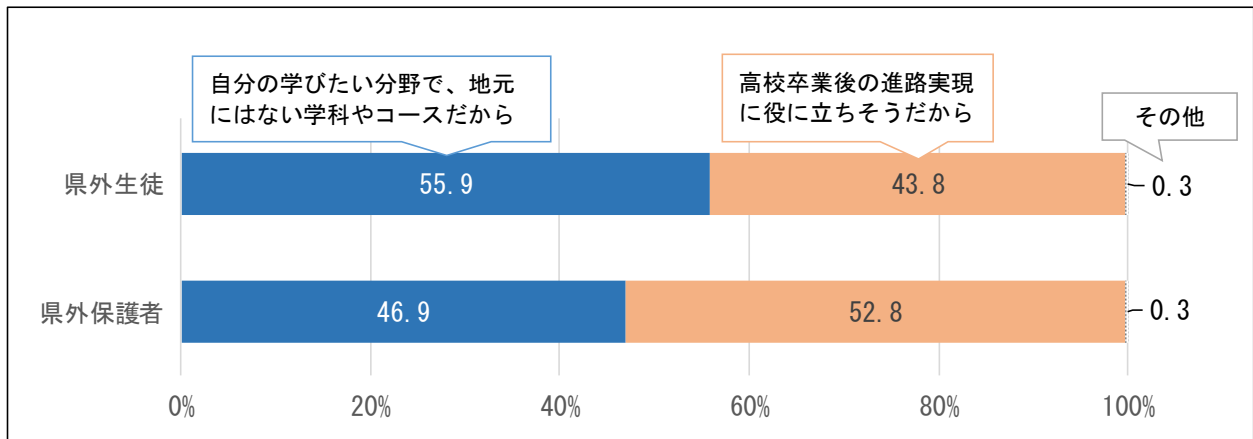
※ 複数回答可

	① 高校水産科を設置している	② 高校農業科を設置している	③ 通科コースを設置している普通高校	④ 置校レソ国内外の講師の個人設置	⑤ る⑤日本の伝統建築を学べる工業高校	績⑥ ある海外大学への進学に実績
県外生徒	6.0	8.5	1 21.9	3 15.8	12.8	2 17.9
県外保護者	6.2	9.6	1 21.8	3 16.6	12.7	2 20.7

(%)

○ 生徒、保護者ともに「地域課題を探究するコースを設置」、「海外大学への進学実績」、「音楽科設置」の順で割合が高い。

Q 通ってみたい（通わせてみたい）高校の理由等として近いもの



○ また、通ってみたい（通わせたい）理由は、生徒は「地元にはない学科、コース」、保護者は「進路実現に役に立つ」の割合が高い。

Q 今後、新潟県で設置を検討している学校について

※ 「とても通学したい（させたい）」と「まあ通学した（させたい）」を合わせた回答の割合

	① 通学コースや遠隔教育を活用したオンラインコースを併置して、自分に合わせて学びの方法や場所をデザインできる新しい学校	② 60か国以上の留学生が在籍する近隣の大学と連携しながら、世界水準の教育プログラムを導入してグローバル教育を推進する学校
県外生徒	44.8	48.3
県外保護者	43.4	52.4

(%)

- 設置を検討している2種類の学校については、生徒、保護者ともに5割前後の肯定的な意見があった。

Q 新潟県で全国募集している高校や、今後、新潟県で設置を検討している学校に求める環境について

※ 複数回答可

	① 専門性の高い教員配置	② サポート体制の充実	③ 生活しやすい環境	④ 寮が完備している	⑤ 通線や駅など、付近に立地	⑥ 学費や寮費等を支援する制度がある	⑦ 全国各地から入学している	⑧ 卒業後の進路実績が高い	⑨ 卒業後の進路実績が高い	⑩ その他
県外生徒	1 39.5	31.7	14.9	3 35.0	15.6	2 36.7	12.2	20.7	19.1	1.0
県外保護者	2 41.0	3 39.9	14.3	38.9	16.9	1 43.9	12.3	23.0	22.5	0.5

(%)

- 生徒、保護者ともに「専門性の高い教員配置」の割合が高いほか、「寮の完備」、「サポート体制の充実」「学費等の支援制度」など生活支援に関する割合が高い。

Q 自宅から遠くても通学しよう（させたい）と思う高校像について

※ 自由記述

◆ 主な複数回答のキーワード（順不同）

- ・ グローバル教育、専門分野が学べる（専門性が高い）、学費が安い、自分（子ども）に合っている（やりたいことができる、みつかる）、安心して通える、将来役に立つ、自由な校風、スポーツに特化、英語

【アンケート調査の概要】

○ 調査の目的

新潟県の中長期を見据えた魅力と活力ある学校づくりを目指し、今後の高等学校教育のあり方について検討する上で、県立高校の現状と課題や、県立高校へのニーズや高校教育に関する期待等を把握し、検討材料の一つとする。

○ 調査対象

(1) 県内

ア	中学校・高等学校に通う生徒	(回答数 22,334 件)
イ	中学校・高等学校に通う生徒の保護者	(回答数 22,153 件)
ウ	小学校に通う児童の保護者	(回答数 16,601 件)
エ	保育所等に通う幼児の保護者	(回答数 8,719 件)
オ	県内企業・大学関係者	(回答数 34 件)

(2) 県外

ア	関東地方の中学校・高等学校に通う生徒	(回答数 1,633 件)
イ	関東地方の中学校・高等学校に通う生徒の保護者	(回答数 1,636 件)
ウ	隣接県の中学校・高等学校に通う生徒	(回答数 454 件)
エ	隣接県の中学校・高等学校に通う生徒の保護者	(回答数 421 件)

※ 関東地方：茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

※ 隣接県：山形県、福島県、群馬県、富山県、長野県

○ 調査方法及び期間

(1) 県内

- ・調査方法 WebによるGoogleフォームに回答したものを集計
- ・実施期間 令和6年7月下旬～8月中旬

(2) 県外

- ・調査方法 委託業者によるWeb調査を集計
- ・実施期間 令和6年11月上旬

「県立高校の将来構想」の案についてご意見を募集します。

県教育委員会では、魅力と活力ある学校づくりの中長期的なビジョンである、新しい「県立高校の将来構想」を令和7年3月に公表する予定であり、このたび、「県立高校の将来構想」の案を策定しました。この案について、県民の皆さんのご意見を募集します。

1 意見募集期間

令和6年12月6日(金)～令和7年1月6日(月)

2 「県立高校の将来構想」の案の閲覧及び入手方法

- (1) 県庁のホームページに掲載
- (2) 県庁行政情報センターでの閲覧、配布
- (3) 地域振興局、地区振興事務所及び県教育庁高等学校教育課での閲覧、配布

3 ご意見の提出方法・提出先(様式自由)

提出様式は任意ですが、「意見提出様式」を参考としてください。提出方法は、下記(1)から(3)のいずれかの方法で提出してください。

- (1) 郵便 〒950-8570 (住所の記載は不要) 教育庁高等学校教育課企画振興係
- (2) ファクシミリ 025-285-7998
- (3) 電子メール kousou@gs.nein.ed.jp

4 提出上の注意

氏名、住所、電話番号を明記してください。匿名の方のご意見はお受けできません。

※ 意見を提出した個人又は法人の氏名・名称、ほか属性に関する情報は、公表しません。

5 提出締切

令和7年1月6日(月)まで ※郵便の場合は当日の消印有効

6 提出されたご意見の取り扱い

「県立高校の将来構想」は、提出されたご意見を踏まえて策定します。

提出されたご意見については、県としての対応状況と併せて公表させていただくことをご了承ください。

7 お問い合わせ先

教育庁高等学校教育課企画振興係 電話 025-280-5614 ファクシミリ 025-285-7998
電子メール ngt500050@pref.niigata.lg.jp